

道 徒 の 聖

SEITO-NO-MICHI

九五八年三月十七日第三種郵便物
可(毎月一回一日発行)
行
七巻第九号 一九六三年九月一日



9

1963

末日聖徒イエス・キリスト教会

The Seito no Michi

Volume 7, September 1963, Number 9

In this Issue

A Prophet's Voice: Oakland Tenple Ground-brealcing	
..... President David O. McKay	556
President's Message President Dwayne N. Andersen
	559
Your Question: To What extent the Israelites were Scattered?	
..... President Joseph Fielding Smith	563
Essentials in Church History (38)566
The Realization of "Kingdon of God"580
Strengthen thy Stakes587
And your feet shod with the preparation of the Gospel of peace	
..... Brother Masao Watabe	578
Aaronic Priesthood : Branch Teaching Lesson (for sep. oct.)590
Church Articles590
Genealogy Guide (for October)	
Sunday School Guide (for October)	
Mission Mother's Message596
Relief Society Lessons606
Literature—Social Science—Visiting Teacher Message—Wark Meeting	
Mission Headquarters News576
Branch News573
GOSPEL IN ENGLISH Sister Smith
	617

聖徒の道

第七卷
第九号

一九六三年九月号



デビッド・O・マッケイ大管長

九十歳の誕生日を迎えて

マッケイ大管長は一八七三年九月八日、ユタ州ハンツヴィルで生れ、ユタ大学を卒業してワイバー大学の教授及び学長を勤められた。一九〇六年四月九日、十二使徒に召され、一九二二年、全世界の伝道部を巡視され、その時、日本にも来ら

予言者のことば

オー克蘭ド神殿くわいれ式の祈り

大管長 デビド・O・マッケイ……556

伝道部長メッセージ

ダワエン・N・アンダーセン……559

質疑応答

イスラエル人はどの程度まで散乱したか

解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老……563

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹 (38)

ジョセフ・フィールディング・スミス……566

神の王国の実現へ

組織からみた現在の努力の具体的目標……580

杭を強くせよ……菊地良彦……587

れました。一九三四年十月六日、第七

代のヒーバー・J・グラント大管長の第

二副管長に召され、一九四五年五月二十

一日引続いて第八代のジョージ・アルバ

ート・スミス大管長の第二副管長に召さ

れ、一九五一年四月九月、大管長に召さ

れて今日に及んで居ります。ヒュー・B・

ブラウン第二副管長はマッケイ大管長を

次のように表現しています。

。丈は高く、知恵は秀れ、心はキリスト

のような人。

マッケイ大管長は農家に生れ、自ら鋤

を持って耕されたので特に農民、労働者に

対する理解が深く、すべての人に対する

愛は広大で、又無口な詩人として多くの

詩を書かれ、その説教の中にも聖句と並

べて多くの格言、詩文が引用されて居り

平和の福音の備えを足にはき

試練に感謝する新潟松川支部長御一家……………578

ブランチ・テイーチング・レッスン 九月用 十月用……………590

系図の道しるべ（十月用）……………592

日曜学校ガイド（十月用）……………595

扶助協会会長メッセージ……………ペギー・ヒュイシ・アンダーセン……………596

ジヨセフ・スミスの生涯 （扶助協会文学用レッスン）……………601

扶助協会レッスン……………606

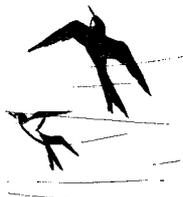
支部だより……………573

伝道本部だより……………576

英会話テキスト……………617

ます。家庭に在っては最もよき、父又祖父として多くの子供さん、お孫さんに囲まれてピアノを奏し、又今日でも郷里の農場を訪れては自ら愛馬に鞍をつけて乗り散歩されるそうです。

ロンドンの神殿の前に立っている樅の大樹を、マッケイ大管長の樹と名づけられたそうですが誠にふさわしい名で、これをおめでたい誕生日に当り、更に百歳の樹齡に達せられんことを心から乞い願ひ、且祈るものであります。





予言者のことば

オー克蘭ド神殿

くわいれ式の祈り

大管長 デビド・O・マッケイ

永遠の父なる神よ。みそなわしたもうごとく、私たちあなたの子供たちは、一つのとくべつな目的をもってここに集って居ります。私たちの心はこの機会をいただいた感謝に満ちて居ります。また私たちはあなたが眞実生きてましますことと、あなたが全人類の父なる神にましますことと、あなたが、この世の父がその子らを愛すると同じように、全人類を愛したもうことを知って心から感謝をして居ります。

また私たちは、自由が重んぜられ、個人がその良心の命ずるままに神を礼拝する自由を得ているこの国のこの地に集ることができの特権を心から感謝して居ります。私たちはあなたがかかることなくこの国の民をめぐみ、あなたのみこころによって与えられたアメリカ合衆国の憲法をお守りになるように心からおねがいたします。この憲法の力を弱めまたは破壊せんとする敵のくわだて



をやぶりたまえ。またどのようにしてもこの国の民から
もまたは他の国の民からもアメリカ合衆国の憲法の与え
る権利をうばおうとする者たちのくわだてを失敗に終ら
せたまえ。

私たちは、あなたが私たちの導き手であり、守り手
あり、永遠の父なる神である確信を得ていることを感謝
して居ります。また、ついに真理の光をして、この世に
存在する暗を追いはらわせたもうみめぐみを感じて居
ります。

この神権の時代に、あなたとあなたの御子とが予言者
ジョセフ・スミスにあらわれたもうた福音の回復を感謝
する私たちの思いを受け入れたまえ。

私たちは、あなたが慈愛に富みたく父なる神として、
あなたの子供たちがすべて救われるように望みたくもうこ
とと、福音の律法と儀式とに従うことによって、あなた
の子孫は生ける者も死せる者もすべて救いを得ることと
を知って感謝して居ります。

あなたの教会を管理する者たち、すなわち大管長会、
十二使徒定員会、大祝福師、十二使徒会補助、七十人最
高評議員会、管理監督会そのほか各地の伝道部、ステー
キ部、ワード部、定員会、いろいろの組織を管理する幹
部の者たちが、まことの代表者として各自の責任を自覚
するようすべての者をめぐみたまえ。

天にまします父なる神よ。私たちは聡明な人々がその
心の中に、現在偏見がとり去られ、あなたの教会の本当
の目的が一層明らかに理解されているのを知っているこ
とを感謝して居ります。いたるところに在る心の誠実な
人々をめぐみたまえ。この人々が個人の自由、個人が創
意を実現する特権、をもつことのできるめぐみを実感す
るように祈りたてまつる。

教会員の義しい努力をすべて栄えさせたまえ。それ
によって、この地方の人々がこの神殿の建築に心から援助
を与え熱心に働らくことにめぐみを与えたまわんことを
祈りたてまつる。

天にまします父なる神よ。聖なる神権を保持し、この
神殿地域のすべてのステーキ部と伝道部を代表するあな
たのしもべとして、私はここに、あなたの御名によって
神殿を建てるためにこの地面を献げて聖別したてまつ
る。私たちはこの地面が神聖なものと考えられるよう
に、そのあらゆる地点をあなたに献げたてまつる。父な
る神よ。汚れたるものを何一つこの地域に侵入させたま
わないように、またここを訪ずれる者の心の中にいささ
かも苦々しき感情のないように祈りたてまつる。もしも
あざけるために来る者があるならば、その者たちはあざ
ける前に祈りをささげ、あなたの御栄えのためにこの神
殿を建てるため、あなたの民と一致するよう心に強い感

じを受けるよう祈りたてまつる。

願わくは、この神殿のためにこれまで設計図をひき、またこれからもつづいて、あなたの御名にふさわしい建物をつくるために設計図をひく人々をめぐみたまうように。また願わくは、請負業者、監督、そのほかすべての職人をめぐみたまうように、またこの人々に知恵をめぐみ、目的に専心するようめぐみを与えたまえ。また願わくは、ブロックを置くときモルタルをぬるとき配線や配管をするとき、または建物のどの部分造っているときでも、一人のこらず自分がこの建物を建てていると自覚するように、またあなたの御名とあなたの御栄えのために今この仕事をしていると自覚するようにめぐみを与えたまえ。

これらの人々が、将来の世代のために今建てていることを、また将来何百、何千、おそらく何百万という人々がこの建物を仰いで、あれらの人々があの宮居を神の御栄えのために建てたのだと言うようになることを実感させたまえ。そしてこの考えを心に持って、神殿を建てて者たちが自分の能力以上の能力を出すことができるように、それによって、出来上った神殿が全教会のほまれになるばかりでなく、この国のほまれにもなるように祈りたてまつる。父なる神よ。このめぐみが働らく者一人のこらずの上に、またこの敷地の上に神殿を建てることに

ついていささかでもかかわりのある者たち一人のこらずの上にあるようにねがいたてまつる。

願わくは、この地域のステーキ部長会、ワード部長会およびこの地域に住む教会員たちが、この建物はこの地方部のためになる建物であり、物質上のことばかりでなく、社交上の価値、道徳上の価値、靈的の価値においても、この建物のまわりに関係のあるすべてのものの評判を一層高め、また一層勢いを盛んにするにちがいないと感ずるよう、これらの人々にめぐみを与えたまえ。

父なる神よ、この奉献を受け入れたまえ。われわれの感謝の心を受け入れたまえ。願わくは、あなたがこの地所を心にかけて守りたまうよう心より訴えるわれらのことばを聞きたまえ。願わくは、この建物を建てるに当り、命にかかわる事故が一つも起らぬように、また監督、請負人、そのほかすべての関係者たちがよく気をつけるように、これによって、近い将来に、あなたの御名とあなたの御栄えのために神殿を献堂するために集るとき、今日の集りと、またすべてその間に行なわれた諸活動とを何らの悔いなく誇りを以て、またこの聖なる集りをなつかしむ思い出をもって回顧することができるように。これらのことをあなたの最も愛したもう御子イエス・キリストの御名により、へりくだって祈りたてまつる。アーメン。

註。以上は千九百六十二年五月二十六日、オクラランド神殿のくわ入れ式に当り、マッケイ大管長がさげられた祈りである。

伝道部長メッセージ

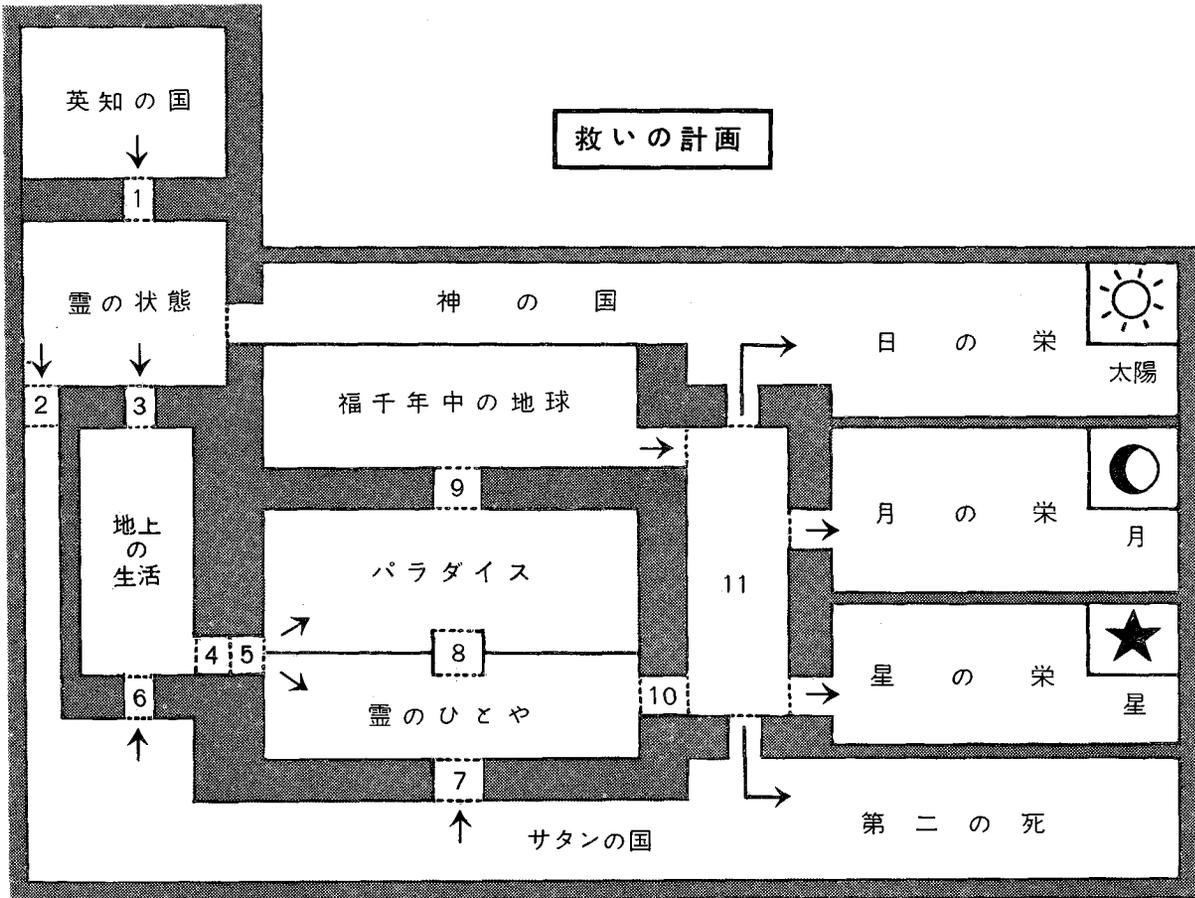


伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

「私はどこから来たのか」、「私はどうしてここに居るのか」、「私はどこへ行くか」としているのか」という人生最大の疑問を、人間はたえず思索しております。末日聖徒イエス・キリスト教会にはすぐれたところがたくさんありますが、その一つはこの教会がこれら人生の大きな疑問に解答を与えていることであります。私たちはこれらの疑問に対する解答を「救いの計画」と呼んで居りまして、図にあらわすと次の通りであります。

私たち自身の一部として常に存在しているものがあって、聖典ではこれを「英知」と言っております。「人はまた太初に神と共に在りき。英知すなわち真理の光とは創造されしにあらざりまた造られしにあらざり、実にかかるべきものにあらざるなり。あらゆる真理は神の置きたまひし範圍に於て独立し、独りにて働らくなり。すべての英知もまた然り。而らば存在なるものはなし」(「教義と聖約」九十三〇二十九―三十)と聖典に見えて居ります。図の(1)で、「英知」たちは神によって靈の体を与えられました。このとき神は、文字通り私たちの靈の父となられたのであります。このようにして、この神は私たちの「天にまします父なる神」になられました。キリストはこのとき一番さきに靈体を受けたお方でありまして、これによってキリストは「われらの父なる神の長子」となられました。

救いの計画



私たちはかつて霊の子らとして神と共に住んで居りました。「さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英知たちを見せたまいたりき。而して、これらすべてのものの中には、高貴にして偉大なるもの多くありたり。神、これらの霊を善しと見たまい、これらの霊の中に立ちて言いたまえり、これらの者をわが統治者となさん。神、靈なりしこれらの者の中に立ちて、これを善しと見たまいたればなり。而して、神われに言いたまひけるは、アブラハムよ、汝はこれらの者の一人なり。汝は生れざる前に選ばれたりと、」(「高価なる真珠」アブラハムの書三〇・二十二―二十三)。

私たちがができるだけの進歩をすると、神は私たちを天上の大会議に召集なさいました(アブラハムの書三〇・二十五―二十八、モーセの書四〇―四四参照)。そして、この大会議のときに「救いの計画」が説明されましたが、サタンは神の計画を受け入れませんでしたので、つき従う者たちと一しょに(黙示録十二〇七―九参照)天から追い出されました(図の(2))。このほかの霊はみなこのらず(8)を通りすぎ、「死ぬべき身をもった両親」によっていつも地球上へ生れてくるのであります。人間が「死ぬべき身」となることは、アダムとイヴが律法を破ったので始まったのであります(モルモン経、ニールファイ第二書二〇十九―二十五参照)。私たちが「死ぬべき身」を受け取るために、アダムとイヴが律法を破ることは必要でありました。この地球上の生活は、主なる神が私たちをためして、私たちが真理に従うかどうかをごらんになる「ためしの期間」であります。

私たちは神の誠命を知って、それを日常の生活でふみ行なうためにこの世に居るのであります(アルマ書三十四〇三十二―三十五、アブラハムの書三〇・二十五参照)。この地球上の生活は、私たちが

「天にまします父なる神」の御前に居ることができるよう準備をする時であります。私たちがこの世を去ると(図の(4))、「死ぬべき肉体」と霊とは離れます。そして肉体はこの地球上にのこりますが、私たちの霊は部分的のさばきを受けます(図の(5))、そして、これによって私たちの霊がパラダイスへ行くか「霊のひとや」へ行くかがまります。図の(6)はサタンとサタンに従う者たちが、この世に居る人々を誘惑して悪事をさせるために出入りする通路であります(マタイ伝四〇―四十一参照)。

「霊のひとや」は、この地球上に生を営んでいた間にイエスのあかしを受けなかった人々のために備えてあるところでありました(「教義と聖約」七十六〇七三―七四四参照)。しかし、キリストはこれらの人々が福音の原則を聞いて知ることができるよう、これらの人々の間に福音を宣べ伝える働きを開始なさいました(ペテロ前書三〇八―一九、四〇六参照)。パラダイスに居る人々も福音を宣べ伝える働きをするために「霊のひとや」へ入って行くことができます(図の(8))。サタンもまた「霊のひとや」へ入ってくる通路をもっています(図の(7))。そして「霊のひとや」の中に居る人々に真理をすすめるように誘惑します。主なる神は、「霊のひとや」で福音を受け入れたふさわしい霊たちに代って地上でパプテスマが行なえるそなえをしていらっしゃいます(「教義と聖約」百二十八〇六―一八参照)。

パラダイスは、福音を受け入れてこれをふみ行なった義しい人々の霊が、復活の時までとどまっている平安と安息の場所であります(モロナイ書十〇三十四、アルマ書四十〇十二参照)。義しい人々はかならず復活をして(図の(9))、第一の復活に出てまいります(モ

一 サヤ書十五〇二十一―二十四、「教義と聖約」四十三〇十八、四十五〇五十四参照。

キリストが再び地上に帰っておいでになるときは、この地球上に福千年の統治が始まります。これは義と平安の千年期であります（「教義と聖約」二十九〇十一、イザヤ書六五〇七―二十五参照）。

この千年の期間中、サタンはしばらくは、地球の上に何らの力もしくは影響力をもつことはありません（黙示録二十〇七十七参照）。しかし、福千年の終りに当りしほしの間束縛を解かれます。最後の場面各段階は「教義と聖約」第八十八章九十五―一百一にひじょうによく概括してあります。そこには、福千年が終りになって始めて第二の復活が起るとはつきり示してあります（図の㉞）。そして、第二の復活が終わると私たちは一人のこらず最後のさばきを受けるために主なる神の前に行かれます（図の㉟）。この最後のさばきで、私たちはこの地球上の生活で行なったことに応じてさばきを受けます（黙示録二十〇二十一―二十三、ロマ書二〇十六参照）。私たちは、肉体をもっているうちにした行ないに依じて、このようにさばきを受けてしまうと、次に良い酬いとしての場所が悪いことをした罰としての場所かを割り当てられます。栄の程度は光の量によって見わけることができます。日の栄は太陽の栄え、日の栄は月の光栄になぞらえることのできる栄え、星の栄は諸々の星の栄えであります（コリント前書十五〇四十一―四十一参照）。

日の栄は、イエス・キリストの福音を受け入れてイエス・キリストの誠命によく従った者たちが受けるためにそなえてあります。日の栄の王国は神の国でありますから、この栄を得た者たちは父なる神とイエス・キリストが住みたもう所に住むのであります。この者たちはキリストと共に父なる神からすべてを受ける者となります。

（「教義と聖約」七十六〇五十一―七十参照）。

月の栄は、この世に於て良い生活を送ったが、バプテスマを受けてイエス・キリストの教会員にはならなかった心の正しい人々のためにそなえてあります。この人たちはイエス・キリストにお目にかかる機会はありませんが、父なる神にお目にかかる機会はありません。私たちの教会の会員でも、勇敢に神の誠命を守らなかった人々は、おなじようにこの月の栄を割り当てられます（「教義と聖約」七十六〇七十一―八十参照）。

星の栄は、偽りを言う者、姦淫を行う者、そのほか光よりも暗を好む者たちのためにそなえてあります（「教義と聖約」七十六〇八十一―九十九、九十八―百十三参照）。

第二の死を受ける者たちは、はつきりと聖霊を知った後これを否定し神の能力に反抗する者たちであります。彼らは何らの栄を受けることなく外の暗黒へなげこまれ、そしてサタンとその使たちと住み、「滅びの子ら」と呼ばれます（「教義と聖約」七十六〇三十一―三十九参照）。

「救いの計画」は、この「時満ちたる神権の時代」に啓示された聖典を通して末日聖徒に明らかにされて居ります。この「救いの計画」がしっかりあなたに心に銘記されるように、以上の考察の中で表示したすべての聖句を読んで下さい。それはあなたが、この地球の上で「こころみの世」の時代を送るときに力となり導きとなるにちがいありません。この「救いの計画」の中で一番肝心なのは、あなたが地球上の生活を送る時期であります。神の誠命をおぼえてこれに服従することにより、神が正しい人に報いたもう最高の報い、すなわち日の栄の王国を自分のものとして下さい。それは末日聖徒イエス・キリスト教会を通して神がお与えになった誠命と律法に従うすべての人の手のとく範囲にあるのであります。

解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

質問。

いつか私は同僚とイスラエル人の血統について討論をしていました。私は純粹の中国人ですが、私が祝福師からいただいた祝福の中に言ってある私の血統について大いに考えたことがあります。同僚にむかって私が、私の祝福には「あなたはアブラハム、イサク、ヤコブおよびエフライムの血統である」と言ってあると話したとき、私の同僚は、そうだったら君は純粹の中国人ではないにちがいないと言いました。同僚がこのように言ったので、それから私は祝福の中に言ってあることばについて大いに考えています。中国人、フランス人、ドイツ人そのほかの人種間の関係について私に教えて下さるなら有難いと思います。私は血統ということ文字通りに考えて、養子縁組は別だと思っていますから、この問題についてはとくに心を寄せている者であります。

解答。

あなたの祝福師は明らかに正しい解釈をした。アブラハムが受けた大きな使命は、彼が後につづく代々の人の祝福となり、彼を通して万国の氏が祝福をされることであつた。創世記を見ると次の聖句がある。

「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」(創世記十二〇二—三)。

また主は言われた。

「わたしのしよとすることをアブラハムにかくしてよいであろうか。アブラハムは必ず大きな強い国民になつて、地のすべての民がみな、彼によって祝福を受けるではないか」(創世記十八〇十七—十八)。

このすばらしい約束は「高価なる真珠」にあるアブラハムの書を見ると、もっとくわしく出ている。すなわち、

「わが名はエホバなり。われは始めより終りを知る。これを以てわが手汝を覆わん。われ汝を大いなる国民となし、汝を限りなく恵み、汝の名をすべての国民の中に大いならしめ、汝は汝の末の子孫にとりて祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とをたずさえて行かん。われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数えられ、立ち上りて汝をその父として祝福すればなり。

「われは汝を祝する者を祝し、汝をのろう者をのろわん。また汝

(すなわち汝の神権)により、汝のすえ(すなわち汝の神権)による。そはこの権能は汝によりて継続し、また汝のすえ(すなわち文学通りのすえ、汝の体より出でたるすえ)によりて世界の眷族ことごとく祝福を得ん。すなわち福音の祝福にして救いの祝福、すなわち永遠の生命の祝福を得んという約束を汝に与うればなり」(「高価なる真珠」アブラハムの書二〇八―一一)。

イスラエル人が約束の地カナンへ入ったとき、主なる神はイスラエル人にきびしい誠命を与えて、汝らはわれに仕えてわが誠命を守れとお言いになった。もしもイスラエル人が神の言に従って誠命を守ったなら、彼らはひじょうにめぐまれて、主なる神がお与えになった地で栄えるはずであった。これに反して、もしもイスラエル人が神の誠命を受け入れないで悪に走ったなら、主なる神は彼らに罰を与えて約束の地の外へつれ出し、全地に彼らを散乱させたもうに相違なかった。

「その所で、あなたもあなたの先祖たちも知らなかった木や石でつくったほかの神々にあなたは仕えるであろう」(申命記二十八〇六十四)。

すべてこれらのことは、イスラエルの犯した悪事のために、イスラエルに起つてくるはずであった。しかしながら、主なる神は、その罰が結局何か祝福にかわることなしには主の民に罰をお与えにならない。イスラエル人が散乱したことは、イスラエル人が散乱して行つた異邦人に一つの祝福となった。というのは、このようにして異邦人と混血したイスラエル人は、アブラハムとその子孫に約束された数々の祝福のめぐみを異邦人にも蒙らせるようにしたからである。

ほとんど大部分の末日聖徒はイスラエルの家系に属しているし、また異邦人の家系にも属している。救い主イエスが導きとめぐみを施しておいでになった当時、イエスはパレスチナに居るイスラエル人のところへだけおいでになった。そして、始めに弟子たちをおつかわしになったとき、弟子たちに命じて異邦人のところへ行かないでパレスチナに居るイスラエル人だけに福音を伝える働きをせよとお言いになったので、弟子たちはこの命令に従った。コルネリオがペテロに教会へ来て話をしてもらいたいと言つたねがいを受け入れるためにペテロが経験した困難は、われわれすべてがよく知っているところであるが、始めの数年はユダヤ人だけに福音が宣べ伝えられた。パウロとその同僚は、ユダヤ人が彼らの伝える福音を拒絶したとき、始めて異邦人に転じて教えを説いたのであった。

「異邦人の時が満ちたこの神権の時代」に、福音は始めに異邦人に伝えられ、それからユダヤ人のところへ行くはずである(教義と聖約)第十九―二十章参照。しかしながら、福音を受ける異邦人は、大部分その血管中にイスラエルの血が流れている異邦人である。モルモン経のとびらの頁にあるモロナイのことばの中には、次のようにひじょうに意味の深いことが言つてある。

「これは神の賜と御力により滅び失せることなく、世に現われて解釈されるため、書かれた後封じて人の目に触れぬよう主の御許に託された。これは時節が来たら異邦人によって世に現われるため、モロナイが自分の手で封じて人の目に触れぬよう主の御許に託したものであって、その解釈は神の賜である能力によって成るのである」。

モルモン経はどのようにして世に現われたか。ジョセフ・スミスの手によつて現われたのであった。モルモン経、ニーファイ第二書

三〇七―十五を読むと、ジョセフ・スミスはエジプトへ売られたヨセフの子孫になっている。それにもかかわらず、彼はモロナイの予言に従い「異邦人により」来たのであった。

モルモン経ヤコブ書第五章には、これまで書かれた「たとえ話」の中の最もすばらしい「たとえ話」がのっている。それは予言者ゼノスの教えをヤコブが述べたものであって、この話の中で、イスラエルの家は主イエスが樹木園に植えたもうた栽培した「かんらん」の木になっている。この木が枯れそうになったとき、主イエスは枝を刈りこんだり根もとに肥料をやったりなさったが、その木の頭の先がとうとう枯れかかった。そこで主イエスは「この木をなくするのはまことに惜しい。だから汝は行って野生のかんらんの木の枝を切って私の所へもってきてくれ。そこでこの木の枯れかかった重なる枝を切ってすてて、火の中になげこんで焼いてしまおう」とおおいになった。

「またその樹木園のあるじは、私はこの木の柔い新芽をたくさんにとって、私のよいと思うところに接木をしよう。たとえこの木の根が枯れたとて、私のためにその実を保存することができればよいのだから、今この柔い新芽をとって私のよいと思うところに接木をしよう。

「汝は野生のかんらんの木の枝をもってきて、それをこの木の重なる枝を切ったところに接げ。そこで私は切りとった枯れかかりの枝を火になげこんで燃し、私の樹木園のじまにならぬようにしよう。

「それから樹木園のあるじは栽培したかんらんの木から切りとった元の自然の枝を樹木園の一番端の方へもって行って、自分の思うままにある枝はあちらに植え、ある枝はこちらに植えてかくした。

「そこで樹木園のあるじが、野生のかんらんの枝を接いだあの木

を見ると、もはや成長して実がなり始め、しかもその木は良くてその実が元の自然の実のようであった」（モルモン経、ヤコブ書五〇七―九・十四・十七参照）。

これはひじょうに興味のある「たとえ話」であるが、今はここにしるしただけで充分であろう。主なる神はイスラエルの民を全地に散乱させたとき、元のかんらんの木の大枝がすっかり枯れてしまった間に、栽培したかんらんの木の枝と、実をならせるためにこの枝に接いだ野生のかんらんの木の枝とを生じさせたもうたということが、これによって明らかになる。

ここにあげたのはヤコブの語った「たとえ話」のごく一部にすぎないが、この「たとえ話」は、イスラエルが散乱したときにイスラエルと血と、野生のかんらんすなわち異邦人の血とが全地に於てまざったことを語っている。それであるから、日本を始め中国、インドそのほか異邦人の国でイスラエルの血が「散乱した」もしくは「接がれた」ことがわかる。またそれで、この集会の時代に主なる神は現在御自分の目的を実現しておいでになって、アブラハムの子孫を「まことの羊飼」の羊の群へ呼び入れておいでになる。このアブラハムの子孫は大部分エフライムの族であるが、それはエフライムが末日に諸族の頭に立つという祝福が与えられているからである。

而して彼ら、すなわち復帰するイスラエルは「わが僕なるエフライムの子孫に豊かなる財宝を産み出すべし。

「永遠の山々の境は彼らの前にめれ動き、

「北の国々の者はひざまずきて、シオンに於てエフライムの子孫なる主の僕らの手により栄の冠を受け、彼らは永遠の悦びの歌をもて満されん」（「教義と聖約」百三十三〇―三十一―三十四）

以上によって、あなたの祝福師が正しい靈感を受けたと信ずる理由がある。



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹

38

第三部 オハイオおよびミズーリ時代

第二十三章 大管長会ミズーリへ移る――

オリヴァ・カウドリそのほかの
人々破門される

(千八百三十八年)

一、暗雲。

千八百三十八年の始めに当って、不吉を思わせる險悪な雲が教会を覆っていた。背教につぐに背教が起つて、以前は真理の忠実な擁護者であった人々が路傍の人になってしまった。これによってサタンは喜び聖徒たちの敵は大いに力を得、それが後になってきわめて痛烈にあらわれることになるのである。

二、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンのがれる。カートランドでは反対の精神がひじょうにひどくなつたので、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの二人はカートランドをのがれて安全を求めざるを得なかつた。そこで二人は千八百三十八年の一月十二日馬に乗ってカートランドを出発しファーウエストへ向つた。これより前、敵は二人に対して不当いやがらせの告訴をしておいた。それによつてジョセフはつまらない嫌疑をかけられて数回裁判所へ召喚された。もちろん罪のないことが証明されたが、その処置は彼の敵のもっている險悪な感情をやわらげようとはしなかつた。二人はカートランドからほぼ六十マイル行つてノルトンに留まり、ここで彼らの家族といっしょになつた。そして一月の十六日、ブリガム・ヤング長老が加わつて再び旅をつづけた。そしてインディアナ州の

ダブリンで予言者は仕事を探し、窮乏を救うために樹木を伐ったり材木を挽いたりした。しかしここでヤング長老の援助により、トムリンソンという一人の兄弟が自分の地所を売って予言者に旅の足しとして三百ドルを与えた。

そのとき天候はきわめて寒冷であつて、のがれて行く兄弟たちは敵のために、充分体を温める設備もないほろ馬車の中に身をひそめていなければならなかつた。彼らの敵は、兄弟たちの命をとろうとして銃とナイフを持ち、カートランドから二百マイル以上も追跡した。予言者はこのときのことを「彼らは度々われわれの行く道ですれちがつた。彼らがわれわれのとまった家に居たことが二度あつた。一度は仕切り一つをへだてて一晩中彼らと一しょにとまったことさえあつた。そのとき彼らが、もしもつかまえたらどうするか見て居れという誓いやのろいのことばを吐くのわれわれは耳にした。そして夜おそくなつて彼らはわれわれのとまっている部屋へふみこんできてしらべたが、その結果われわれが当の人間ではないとされたのであつた。べつの時には町の中で彼らとすれちがひ、彼らがわれわれをじつと見るとわれわれも彼らをじつと見つめたが、彼らはわれわれが何者であるか解らなかつた」としてしている。

ファーウエストへ二百二十マイルほどの地点へ着いたとき多数の兄弟が予言者を出むかえ、ファーウエストへ行くために曳車用の牛を幾組も備えて予言者を助けたので千八百三十八年三月十四日予言者はファーウエストへ到着した。ファーウエストの兄弟たちはここから予言者を歓迎した。このときシドニ・リグドンは家族の中に病人が出たので途中で旅を手間どり四月四日によく到着した。

三、ミズーリにおける会長会拒否される。 暗黒の精神はカートランドからミズーリへひろがって教会のおもだった兄弟たちに影響を与えた。千八百三十七年九月三日マーテン・ハリスはほかの三人の兄弟たちと共にカートランドの高等評議員会から除名された。また背罪の状態に在つたオリヴァ・カウドリは悔改めをするという条件で彼の職にとどまっていた。しかし、もしも彼が悔い改めなかつたなら「教会員はまもなく彼を支持しないという反対の手を挙げざるを得なくなるであろう。それであるから彼のために祈れ」と予言者は言った。これらの人々とカートランドに居たほかの人たちは、ミズーリに居た兄弟たちを動かしたのでカールドウエル郡の中で教会離反の精神が大きくなり始めた。千八百三十八年二月四日ファーウエストで聖徒の総大会が開かれ、この大会で会員たちはデビッド・ホイットマー、ウイリヤム・W・フェルプスおよびジョン・ホイットマーを正会員として認めないという反対の挙手を行った。そして次の日、カーターの植民地、ダーフィーの家、ハウンの製材所でもおなじ処置がとられた。

これらのうちウイリヤム・W・フェルプスとジョン・ホイットマーの二人に対する非難は、この二人が主の啓示を聞き入れずにジャクソン郡にある彼らの財産を売り払つたがこれは信仰を否定する最も大きな罪である。また二人は教会が使うために借り入れた資金を横領した、というのであつた。主は啓示を与えてこれらの人々が罪を犯したことを責めまた警告をなざっていたが、彼らはその警告を心にとめなかつた。デビッド・ホイットマーは彼らと同様不正な行為と義務の怠慢と、ひきつづき茶、コーヒ、タバコを用いて「知恵の言葉」をやぶつたかどで非難された。「知恵の言葉」につ

いては、このようなことをする教会の役員は誰であっても支持をしないと、教会は支持の挙手によって記録にしろしておいたことであつた。

大管長会のジョセフ・スマイスおよびシンドニー・リグドンが来るまでトーマス・B・マーシュとデビッド・W・パツテンがミズーリ州の管理長老として支持された。前に言つたウィリヤム・W・フェルプス、ジョン・ホイットマーおよびデビッド・ホイットマーらの非難された三人は教会の総大会で行なわれた決定をあらゆる態度を改めようとせず、オリヴァ・カウドリおよびマーセラス・F・カウドリも同様の態度に出たので、これらの人々は千八百三十三年三月十日、高等評議員会の召喚に応じて出るように言われた。その結果、ウィリヤム・W・フェルプスとジョン・ホイットマーとは破門され、マーセラス・F・カウドリは正会員の資格を失ない、デビッド・ホイットマーとオリヴァ・カウドリの二人に関する件はさらに審査をするために延期することとなつた。

四、教会の政治上の標語。大管長会のジョセフ・スマイスとシンドニー・リグドンがフアーウエストに着いてまもなく、次の政治上の標語が採用された。すなわち、

「わが国の憲法は自由なる祖先によって作られた。社会の平安と良好な秩序。神には愛を、人には善意を。あらゆる善き健全な法律、なかならずく徳と真理よ永遠なれ。さりながらわざわいなるかな、圧制者よ、暴徒よ、貴族政治よ、無政府状態よ、保守主義よ、また法律もしくは宗教と政治をとわず役職をみだりに利用して、不正かつ人を困らせるための告訴をつくり出しまたは告訴をなさんとする者よ。民主主義の旗じるしをあげよ、しかして祭司の偽善完教の旗

じるしを打倒し、われらの先祖の血がわれらに反対して地より叫ぶよう、すべての人々をしてアーメンと言わしめよ。われわれに自由を得させる血の記憶は神聖なり」。

五、フアーウエストで第一回の総大会開かれる。千八百三十八年四月の六日、ミズーリにおける教会の第一回の総大会がフアーウエストで開かれた。そしてこの時ジョン・コリルとエライヤス・ヒグビーとが歴史記録者に選ばれ、ジョージ・W・ロビンソンが教会の記録主任兼大管長会書記として選ばれた。またデビッド・W・パツテンとブリガム・ヤングの二人がシオンにおける教会の会長の役員として支持されたが、そのあくる日デビッド・W・パツテンは十二使徒評議員会の働らきを報告して彼はウィリヤム・E・マクレリン、ルーク・S・ジョンソン、ライマン・E・ジョンソン、ジョン・F・ポインソンを推薦することができない、またウィリヤム・スマイスに関しては確定していないと言つた。そのほかの兄弟たちは忠実にその義務を遂行していた。

六、ジョン・ホイットマー教会の記録をおさえる。大会の承認を経て、前に歴史記録者であつたジョン・ホイットマーに手紙を送り、彼がもつていた教会の記録を返すように要求した。ジョン・ホイットマーはこの要求をことわつて、死ぬまで教会の記録を返さなかつた。その写しの一部が現在教会の文庫にある。

七、オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマーその他の人々が破門される。千八百三十八年四月十一日、シーモア・ブランソンはオリヴァ・カウドリに対して九箇条の非難を提出し、オリヴァ・カウドリを翌日の審問に出るよう召喚した。オリヴァはこの裁判に出ることを拒絶し、ひじょうに苦い精神と反抗に満ちた手紙を

送ってその中で自分には「個人の自由がある」ことを誇り、気にさわった態度で、どんな宗教法廷でも個人のこの世の利益に関して個人を左右する権利はない、それは憲法の保障する権利に反する、それであるから「自分はある団体にこのような権利があると仮定してそこから自発的に身を引こう」と言ってきた。高等評議員会に提出された非難のうち二箇条は却下され、一箇条はとり下げられたが、この六箇条は支持された。今や、以前の同僚たちにかほどまで苦い感情を抱くようになった反抗的の「教会の大管長補助」に対して高等評議員会は破門をする以外に道はなかった。

四月の九日に、おなじく五箇条の非難がデビッド・ホイットマーに提出されて十三日の審問に出席するよう召喚してあったが、デビッドもまた手紙をもって答え、その中で自分は教会の総大会の権能と自分にとられた処置とを認めない、また自分に關する件を審問するために召集された現在の評議員会に権能があることも認めない。またこの評議員会が「どうしてもその不法な道に従う」というならば、「天の啓示が守られ、人々の権利が認められる、柔和にしてけんそんな心の人々の中に地を選び求めて、自分は彼らの宗教団体仲間から」身を引く方を選ぶと言ってきた。それであるからデビッド・ホイットマーに対しても処置がとられて、モルモン経のとくべつな見証者のもう一人もこのようにして教会から断ち切られたのであった。

註。この宗教裁判について宗全な記録を見たい人は「教会記録歴史」第三卷、十六―二十頁を参照されたい。

八、ライマン・E・ジョンソンとウイリヤム・E・マクレリン。
同日またライマン・E・ジョンソンに非難が提出されてこれが支持

されライマン・E・ジョンソンは教会から断ち切られた。それから一箇月たつて千八百三十八年五月十一日、ウイリヤム・E・マクレリンもその正会員たる資格が論ぜられ、その結果彼も教会における地位を失なった。このころジェコブ・ホイットマーとハイラム・ペーじもまた背教の精神をもつたために教会を去つた。

八、悲しみの日。これはジョセフ・スミスにとって悲しみの日であった。教会の始まりに彼と共同した見証者の人々が路傍の人になつてしまふのを見てジョセフ・スミスの胸は痛んだ。それにもかかわらず、たとえ正義の勝つことがいやし難い傷をつけることがあつても正は邪に勝たねばならない、正義は勝利を得なければならぬ。

天使と、モルモン経が翻譯された原版とを目のあたりに見た見証者たちは、予言者ジョセフ・スミスに対してきわめて痛烈な悪感情をあらわしたにもかかわらず、これらのことに関する証詞をかかつて変えたことがなかった。このことはこれらの人々の名譽のために言つておく。

註。この暗黒の時代に、モルモン経の三人のとくべつな見証者は一人のこらず教会を去つた。また八人の見証者のうちでジェコブ・ホイットマー、ジョン・ホイットマー、ハイラム・ペーじの三人も同様に教会を去つた。クリスチャン・ホイットマーは千八百三十五年十一月二十七日ミズーリ州で教会正会員の完全な資格と真理の強い確信とをもって死んだ。また彼の兄弟ピーター・ホイットマー(二代目)も教会の正会員たる資格と固い信仰とをもって千八百三十六年九月二十二日に死んだ。後になってオリヴァー・カウドリとマーテン・ハリスとは教会へ復帰し、正会員として死んだ。またルー

ク・S・ジョンソンそのほかこのなやみの時代に離反した多くの人も同様であった。

十、キンポール長老とハイド長老帰国する。千八百三十八年四月一日、英国プレストンのテンペランス・ホール（鬮鶏場）で教会員の大会が開かれた。その目的は英国伝道部にある各支部を整頓することであつて、ヒバー・C・キンポールについてジョセフ・フイルディングが英国伝道部の伝道部長として支持されウィラード・リチャーズおよび英国人改宗者であるウィリヤム・クレイトンが伝道部長会顧問に選ばれた。そしてこれらの人は大祭司に按手聖任された。千八百三十八年四月二十日、キンポール長老とハイド長老とはさきに英国へ来たとき乗ってきた同じ汽船「ガリック号」に乗つてリバプールを出帆してアメリカ合衆国へむかつた。二人は千八百三十八年五月二十一日カートランドに着き、ただちにファウエストに居た予言者に、自分たちが好い感情と固い信仰をもつてゐることを知らせた。

十一、主の家——ファウエスト。千八百三十八年の四月二十六日に下つた啓示の中で、主はファウエストをミズーリにおける聖徒たちの集る中心地として、また主に聖く奉獻されるべき避け所として受け入れたもうた。そこには主の御名のために一つの宮居が建てられるはずであつて、その年の七月四日を以て工事を始め、その時から聖徒たちはその宮居が完成するまでつとめはげんで働らくはずであつた。しかしながら大管長のジョセフ・スミス、シドニー・リグドンおよびフレデリック・G・ウィリヤムに代つたハイラム・スミスの三人はそれ以上負債をすることはできなかった。ファウエストのほかにその附近の植民地を聖徒の集る場所として選びシオ

ンのステーキ部が建てられることになつた。

十二、シオンのステーキ部。千八百三十八年五月のながばごろに下つた啓示に従つて、大管長会のジョセフ・スミスとシドニー・リグドンはデビッド・W・パットン、エドワード・パトリック・監督そのほか多くの長老たちと入植するための土地を見つけかつシオンのステーキ部を置く場所の目星をつける目的で、ファウエストの北に当る荒野へ出かけて行つた。一行は、ニーファイ人の建てた古い塔の廢墟があつたので「塔の丘」と呼んだ所まで、二十五マイルほどグランド・リヴァアをさかのぼつて進んで行つた。ライマン・ワイト長老がここに家をもつていたので、一行は五月の二十日ここに宿營したがその日は安息日であつた。その日の午後、大管長会のジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは書記のジョージ・W・ロビンソンといつしよに、市の土地を選んで所有権を主張する目的で川を約半マイルさかのぼつてワイツ・フェリーまで行つた。ここはデビース郡第六十区、二十七および二十八放牧地であつて兄弟たちは「スプリングヒル」と呼んだが、主の口によつて「主言いたまえり。アダム・オンダイ・アーマンとは、アダムがその民を訪ずれんがために来るべき地なるが故に、すなわち予言者ダニエルによりて言われし如く『最も老いたる者』の坐すべき地なるが故にかく言うなり」と記録に言つてある（「教義と聖約」第百十六章、ダニエル書第七章参照）。

また、われわれはここが、アダムがその死ぬ三年前に子孫たちを集めて彼の祝福を与えた所であることを知っている。そのとき主が彼らに現れたまい、アダムの子孫はみな立ち上つてアダムを祝福し、彼をミカエル、王の君、天使の長と呼んだ。また主はアダムに

慰めを施こして言いたもうた「われ汝を立てて首長となす。諸々の民は汝より出て来り、汝は永遠にその君たるべし」と「教義と聖約」第百七章、五十三―五十五參照。この場所の名前はすでに千八百三十二年の三月に始めて啓示されたのであるが、聖徒たちはこの兄弟たちがここへ訪ねて来るまで、アダム・オンダイ・アーマンがどこにあるか知らなかったことが明らかである。アダム・オンダイ・アーマンはミズーリ州デビス郡グランドリヴァーの北側にあり、ファーウエストの北二十五マイルほどの所に当る。そこは小高いところに位置し、予言者は「合衆国のいかなる所よりも健康に適した地になっている」と言った。そこは川を見下ろすすばらしい景勝の地である。

十三、そのほかの敷地が選定される。まだ持ち主のなかつたそのほかの地方も、主の啓示で命じられたように聖徒の集るために選定された。教会の歴史を見ると、これらの土地を選んだことについて次のように説明してある。

「二十一日(月曜日)、第六十一区、二十七および二十八放牧地であるこの地でいくつかの目星をつけてから、前の日に通つたグランド・リヴァーの近くでいくらかの土地を得るため二マイルほどロビンソン・グロウの方へ戻つた。ところが前の測量に誤りがあったことを知つたので、正確な線を得るため測量師を五・六マイル南の方へやった。その間、何人かは野営用の水を得るために留まっていた。その晩、われわれはすぐに北の地方へ行くのが賢明か、それともこの近所に留まってグラント・リヴァーのほとりで土地を手に入れるのが賢明かを知るために兄弟たちを會議に招集した。兄弟たちはこの問題について思うところを自由に語つたが、その時私は會議

に加わつた人たちに、ここに留つて近所の土地すなわちこととファーウエストの間、とくにグラント・リヴァーのほとりにある土地をみな手に入れるよう強く心に感じたと思うと考へを述べた。リグド副管長の考へもこれと一致したので會議に加わつた人は全員一致をもつて、グラントリヴァーのほとりの土地と、こととファーウエストとの間にある土地を手に入れることを可決した」

それから何日も何日も、兄弟たちは測量をすることに、入植する場所を選ぶことに、またそこへ急速に來りつつあつた聖徒たちの集るために家を建てて準備をすることに時間を費やした。兄弟たちは旅をしていたとき、インディヤンの先祖が築いた、塚の形をした古代の建造物に折々出会つた。

十四、ファーウエストにおける独立祭。聖徒たちはアメリカ合衆国の独立を祝つて千八百三十八年の七月四日を過した。このときあらゆる暴徒と迫害する者たちからわれわれは独立するという宣言が発せられ、行進を行つた後聖徒たちは主の宮居を建てるために掘きくした場所に集り、千八百三十八年四月二十六日の誠命に一致して、計画された神殿の首石を置いた(「教義と聖約」第百十五章參照)。東南の隅の首石はエドワード・パートリッジ監督が十二人の人々の助力を得てこれを置き、東北の隅の首石は十二人の人々の助力を得て「教師」たちがこれを置いた。この建物は長さ百十フィート、はば八十フィートにでき上るはずであつた。

当日シドニー・リグドンが説教を行ない、式の次第が終つたとき、会衆一同は「ホザナ」と叫び讚美歌を唱い終つて散會した。

十五、什分の一の律法。全財産奉獻の律法にかわり、また聖徒を訓練する「教師」としての働らきをする「什分の一の律法」は、

啓示によりフアーウエストに於て千八百三十八年七月八日に与えられた。これよりきき、われわれの知るように、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリとは貧しい人々を支えるために彼らの受けたすべての十分の一を与えるとの誓約をした。今、予言者は聖徒たちがどの道をとるべきかを知るために主に伺つて次の啓示を受けた。すなわち、

「誠に、かくの主は言う。われ人々その剰余の財産をことごとくシオンに於けるわが教会の監督の手に納めんことを求む。こはわが宮居を建つるため、シオンの礎を置くため、神権をもてる者のためまたわが教会の大管長会の負債のためなり。これを以てわが民が為す十分の一の始めとなすべし。まずこれを為して後、かくの如く十分の一を納めたる者は、以後毎年彼らの得る全利益の十分の一を納むべし。これをもつて、わが聖なる神権のためにする彼らの守るべき永久的定法となす、と主は言う。

われ誠に汝らに告ぐ、すべてシオンの地に集る者はその剰余の財産を自分の一として納め、この律法を守るべし。然らずんば、彼らは汝らの中に住むにふさわしからぬ者なり。

われ汝らに告ぐ、もしわが民にしてこの律法を守りて聖く保たず、またこの律法によりてシオンの地をわれに聖くして以てわが律令を審判とをそこに保ち、その地を最も聖きものとなさずんば、見よ、誠にわれ汝らに告ぐ、そは汝らにとりてシオンの地にあらざるべしと。こは、あらゆるシオンのステーキ部に通ずる範例なり。誠に然り、アーメン」と。

また、「自分の一」は大管長会、十二使徒会および管理監督会から成る評議会によつて処理されるべきことが知らされている（「教

義と聖約」第百九十九―二百二十章参照）。

十六、十二使徒の使命。「自分の一の律法」に関する啓示が与えられたと同じ日に、主はまた十二使徒評議員会にも啓示を与えてヨーロッパにおける外国の伝道に働らくよう召したもうた。彼らは主の宮居の建築地から、千八百三十九年四月の二十六日に、フアーウエストの聖徒らに別れを告げて出立せよと言われた。あの殺氣立つた反対のまっさい中に、その日この啓示が成就された次第は後からわかる。ジョン・テイラー、ジョン・E・ページ、ウィルフォード・ウッドラフおよび当時英国伝道部の伝道部長会の一人として働らいていたウイラード・リチャーズが、除名されたウイリヤム・E・マクレリン、ルーク・S・ジョンソン、ジョン・F・ポイントンおよびライマン・E・ジョンソンに代つて十二使徒の職に召された。そのころ英国から帰つてきたヒーバー・C・キンボール長老とオルソン・ハイド長老とは、千八百三十八年七月二十九日にフアーウエストの集会で話をし、その外国の伝道地で経験したいちじるしい経験を述べた。八月の五日、ある集りで、そのころ再バプテスマを受けていたフレデリック・G・ウイリヤムスが会員として再確認された。彼はカートランドで痛烈な反対精神をもつたために、大管長会の一役員としての席を失なっていたのであったが、このたび教会の正会員たる資格を求めてフアーウエストまで来ていたのであった。



支部だより

旭川支部

各支部のみな様、おかわりございませんか。私達旭川支部は益々元氣一ばいに頑張っております。

○タラント・ゲーム

教会建築資金を得るために、私達会員はタラント・ゲームを致しました。このゲームは教会から資本金として百円預り、そのお金を自分のアイデアによって大いに活用するのです。ある人は品物を安く仕入れて高く売り、またある人は自作の飾り物等を売ったりして資金を得ました。この結果が、七月十三日に行われた食べよう会で公開され二万七千七百七十九円（七月二十八日現在）もの金額に及ぶことができました。またこの会は、食べよう会とひとりの長老の送別会をも兼ねてたいへん盛大に行われました。

○バプテスマ

七月十四日の良き日にふたりの兄弟姉妹が

誕生致しました。

小田雄久兄弟 森敬子姉妹

○バザー

二十日、二十二日の両日、常盤公園千鳥ヶ池淵で扶助協会主催のバザーを行いました。この日は神社祭で、かなりの客があると見込んだのですが、残念乍ら雨で少々期待を裏切られました。

○登山

七月二十四日「開拓者の日」を記念して、昨年爆発して有名になった十勝岳に登山しました。出席者は兄弟姉妹、長老達合わせて十七名。午前八時三十分、旭川駅からバスで白金温泉まで行き、九時五〇分頃から登山し始めた。谷間に響きわたる小川のせせらぎの音は、本当にすばらしいものでした。そしてまたお天気にも恵まれ、たいへん楽しい登山の一日でした。

○非専任宣教師

旭川支部から左記の四人が選ばれました。島崎和子姉妹 昭和三十二年八月にバプテスマを受け、MIA会長・教師、日曜学校副会長・教師・音楽教師等を歴任。山地陽子姉妹 昭和三十五年十月にバプテスマを受け、扶助協会会長・副会長を歴任。

長瀬美津子姉妹 昭和三十六年九月にバプテスマを受け、MIA会長・副会長・教師、音楽指揮を歴任。

三浦ルイ子姉妹 昭和三十七年二月にバプテスマを受け、扶助協会教師を歴任。彼女達は、その非専任宣教師という責任に対して、大きな喜びと、またその仕事を必ず立派に果さなければならぬという強い決心を持っております。

太田美耶子、宇野登美恵姉妹記

京都支部

盛夏の候となり蒸し暑い日々が続いていますが、各支部の兄弟姉妹は神の忠実な僕として、毎日の生活をお送りのことと存じます。京都支部も各支部に取れないよう皆協力一致して、支部の発展のため尽しています。

○役員の変更に伴い、次の新役員のもとでフアイトを燃やして責任を遂行していきます。

支部長会

支部長

安芸 宏

第一副支部長

片山富美夫

第二副支部長

講崎元清

書記

高良慎清

神権会

委員長 飯島靖二
 教師 金丸 強
 書記 草野信幸

日曜学校

会長 佃 昌治
 第一副会長 高良愼清
 第二副会長 安東博通
 書記 四辻和子

M I A

YM副会長 川口弘祐
 YM副会長 岡本 亮
 YW副会長 山口敦子
 YW副会長 長棟富美子
 書記 中村幸二

扶助協会

会長 佐々木真樹子
 第一副会長 西野清美
 第二副会長 片山満枝
 書記 長谷川清子

○地方部宣教師として田中正子姉妹、小山美恵姉妹が現在一生懸命伝道されています。
 ○六月より「聖歌隊」が誕生し、十名の兄弟姉妹が、支部長会の面接を受け、京都支部聖歌隊員となりました。そのメンバーは、ソプラノ、長棟富美子、山口敦子、長谷川清子。アルト、亀谷テル子、田中正子、今川愛子。テナール、中村晴光、講崎元清、パス、岡本亮、飯島靖二の兄弟姉妹です。
 この聖歌隊の目的は、教会に美しい、聖なる歌を、讃美の歌を歌うこととはもとより、

会員、求道者の皆様に、讃美歌の重要性と讃美歌が私達の心にもたらす大きな影響、そして、十名の兄弟姉妹によって讃美歌を上手に、より美しく歌う様りによって戴くこと、又、会員が四人寄れば四重唱を、二人でデュエットを、全員寄れば偉大なLDSコーラスになる様努力することです。現在はまだ十名の音が合う様に調節中ですが、一ヶ月後には聖餐式でその努力の成果を上げ、美しい讃美歌を会員、求道者の皆様に聞いて戴ける様、一層努力したいと思います。皆さん、京都支部聖歌隊の歌を聞きたいと思いませんか。

阿倍野支部

日曜学校二部制実施さる!!

主の恵みと宣教師(アンダーセン、スミス、シオザワ、ヒルトン、ヒンギー、テイラー、ニルソン、チャントレル)長老、宮武、田中姉妹)達や兄弟姉妹の協力により会員数が多くなってきました。遅く出席する人はスリッパや椅子が無く、パスにも長時間かかり満員なので静かさに欠くというような色々な問題点が出来てきました。

聖歌隊指揮 佐々木真樹子姉妹

○神権聖任者

際司 佃 昌治
 執事 飯島靖二 中村幸二
 香西克俊 岡本 亮 金丸 強

この問題を無くし、長老達が安心して伝導出来る様(現状より出席者が増えるとはみだす人が出来る)次の指導者を養成する為や近い将来大阪にもう一つの支部を作る準備等、色々な良い目的の為に『全国に先駆け』一つの建物の中で二回の集会を持つ事になりました。

○六月二十二日はM I A主権により食事会が開かれ、同時にカネコア長老の提供でハワイ・スライド会も催されました。

ハワイ、強烈な太陽ノ 真青な海ノ
 ロマンチックな美しい浜辺ノ

「ああ、こんな美しい世界があったんだな
 あ」と溜息をつく。ところがこの部屋を

一歩でも出てみよ、このじめじめしさノ
 台所での騒然たる物音ノ「ガチャン、ガラ

ン」。「飯はあ」「しまった」「何がしま

つただ、はやくノ」「落着けノいい歳して」

何たるこの相違、何というギャップ、思わ

ずニヤリとせざるを得ないではないか。

第一日曜学校聖餐式 十時三〇分〜一時迄

第二日曜学校聖餐式 一時三〇分〜四時迄

七月七日初めて二部制になった、会員達は伝道部長の訪問が予定されて居り、安息日には

楽しみにしていましたが、都合でお見えにならず副伝道部長の山田五郎兄弟が出席されま

した。兄弟は三年程前に当支部で専任宣教師として長く働いていらっしやいましたので、

現在のアベノ支部の発展振りも大変喜んで下さり、良いお話をなつかしく伺いました。

第二部に属する人達は午後のお出陣なので今迄と少し勝手が違います。

『今日は教会はお休みかい?』等と家族に

支部だより

云われ乍ら太陽の照りつける中を教会へ向
います。又日曜学校、扶助協会共に二部制で
すのでお互いに教会へ行きながら合わない時
が多くあります。

「お久しぶりですね、本当にお元気でし
たか？」とたまに会った時の挨拶は念入りにな
ります。

支部長会、日曜学校会長会は第一第二を兼
任していますので本当に大変です。がとにか
く軌道に乗せようと頑張つて居ります。

札幌支部

七月二十日、午後、教会堂建築資金獲得の
ため、交歓バザーを開きました。

家で使われずにいて、必要としている人
は、立派に役立つ品を提出します。集められ
た品物は係によつて、ぐんと安い値段をつけ
られ、当日にそなえます。今回は約一時間、
買手約二十人のうちに、一万円を越す純益を
あげることが出来ました。電気製品から、衣
類、食料品、家庭用品、本、人形等に至るま
で、数多く出品されておりました。Aさんは
品物を提供し、Bさんはそれを買います。こ
うして、多くの人々が参加しやすい計画なの
で、毎月続けて行きたいと支部長ははりきつ
ています。回を重ねるごとに、会員の経済生
活と結びつき、主旨通り、歓びを交換すること
が出来るとは思いますが、資金がかか
らぬので、将来有望な計画と言えましよう。
七月十四日、二人の幼児の祝福がありまし

た。遠藤孝紀兄弟の初めての子、由紀子ちゃ
んと、西島吉春兄弟の、同じく、初めての子
和秀ちゃん、それぞれ長老の神権を持つお
父さんから、儀式をほどこされました。我が
子の将来を祝福する二人の言葉には、喜びま
した、愛情があふれ、実に厳肅なものでありま
した。感激の面持をかくしきれないお父さん
の手から、お母さんの手に、赤ちゃんが渡さ
れる時、モルモンの家庭の幸福を見る思いで
した。

那覇支部

全国の皆様お変わり御座居ませんか。少々遅
れましたが沖縄地方部那覇支部の近況をお知
らせ致します。那覇支部では去る七月三日
より七日までの五日間支部大会を開催致しま
した。盛大にその幕をとじたのですがこの大
会は一貫して前地方部大会(六月の夏季大会)
に正式に発表があった支部教会堂建築に関す
るこれからの私達の計画や心構えについての
事で、話しや証しをなさったの兄弟姉妹も
建築が実際に着工された際私達は何を為すべ
きかという事についてでした。本大会が待た
れた事によって兄弟姉妹達の建築に対する気
遣が盛り上がった事が解かります。地方部大
会でも発表がなされると同時に支部の建築委員
会も組織され早速活動を始めました。那覇市
の建築許可も降りあとは着工を待つのみ、支
部設立後七ヶ年目を迎えずして建築計画が適
用される事はまことに恵み深い支部で
あり、感謝も大きいわけです。長嶺地方部長

の話しに依れば「八月に入ったら始められる
だろう」という事を聞きました。余すところ
わずかで有り、ぐずぐずして居れない状態
で。これからは大変ですが全国の兄弟姉妹の
応援を心からお願ひ致します。各支部の皆様
は今度開かれるMIA全国大会の準備に大重
だと思ひますが、その時大会でお会い致しま
しよう。ここで那覇支部の指導者連を御紹介
致します。

支部長会

支部長 大城朝次郎

第一副 新垣朝儀

書記 宮良 毅

日曜学校会

会長 喜村 正

第一副 川満布一郎

第二副 当真健二

書記 大城郁子

子供日曜学校

責任者 宮城三枝子

書記 当真紀子

外教師

MIA会長会

YM会長 宮良 毅

副 平良光男

YW会長 田里裕子

副 遠藤明子

扶助会会長会

会長 長嶺弘子

第一副 山里富美子

第二副 草地利子

書記 呉屋洋子

伝道本部だより

バプテスマ

一九六三年六月

引青	廣井	秋山	福岡	宇野	太田	旭川	脇井	松水	高水	是川	門堀	五十嵐	橋本	藤原	麻見	阿倍野						
寺木	島上	山上	岡野	野田	田川	川野	井野	井野	水間	川堀	堀野	嵐本	本洋	原妙	見寛	野男						
忠義	義盛	由紀	優子	登美	美那	和子	増次	隆司	一隆	修司	修司	祐司	洋子	妙子	寛男							
西伊	名古	年滝	中松	林岡	足立	松本	内田	村田	的場	京都	初刀	金丸	甲府	吉田	金山							
村藤	屋花	花沢	村岡	岡野	立岡	本岡	和田	田翼	好子	都野	刀丸	丸節	府野	田花	山繪							
吉千	恵子	幸子	長年	恵子	君彦	良美	由美	和恵	翼夫	好子	淳子	節子		敦繪								
久門	猪塚	伊藤	樋上	日原	橋本	三宮	西岡	岡野	谷添	松田	神藤	伊藤	堀田	後藤	西宮	渡辺	渋谷	佐藤	斎藤	北畑	新田	
下塚	田塚	塚藤	藤上	原本	本宮	宮岡	岡野	野添	谷添	松田	神藤	伊藤	堀田	後藤	西宮	渡辺	渋谷	佐藤	斎藤	北畑	新田	
恵美	健美	幸子	尚子	通子	亮一	直建	鈴子	世季	知彦	康夫	裕子	千恵	和子	藤子	西子	渡子	谷子	藤子	斎子	北子	新子	
子作	子作	子子	子子	子一	建	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
木市	福新	新井	東京	山田	庄藤	加藤	稲葉	相原	仙台	沢畑	札嶋	豊島	高橋	沢井	佐藤	佐藤	佐藤	岡田	越智	松田	増田	前田
村川	川井	井井	東京	山田	庄藤	加藤	稲葉	相原	仙台	沢畑	札嶋	豊島	高橋	沢井	佐藤	佐藤	佐藤	岡田	越智	松田	増田	前田
喜雅	茂子	淑子	順子	慶子	八州	七蟻	慶子	和夫	正宏	司郎	登志	末子	博文	治彦	武彦	和子	順子	宏昭				
有子	雄子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子										

山形 佐藤 大竹 川名 石黒 平井 東京西 永木 泉原 一頼 東京南 丸山 菊地 東京北 田村 東京東 山中 山田 辻田 白石 佐原 小堤 中村 向井 征二

稲村 仲島 滝沢 那瀨 阿波根 備瀬 福村 福村 我那 謝花 前田 宮良 西銘 支那嶺 阿倍野 ヒゴフカシ ヒラヤマ テルヒサ カガワ トシヒロ スズカ シンゾウ ツノヤマ テルオ イワイ エイイチ 旭川 クマガイ マサオ (教)

福岡 スマタ ヒロミチ (執) 群馬 キタヌマ マサヒコ (長) シンジョウ タケシ 名古屋 コサキ カズオ (教) マツモト シンイチ (祭) イケダ シゲミ (祭) 東京中央 アライ イサオ (長) ナリタ フジオ (長) 東京北 ホリグチ ツグミチ (執) モチズキ トシオ (長) アラ ヨシカズ (長) 東京南 カワシマ ミツグ (長) 東京西 ドイ クニアキ (執) フクダ ノリアキ (教) ハヤシ タカシ (祭) コナミ ヒロツグ (祭) タバタ チャールス (祭)

ウチヤマ マサノブ (長) アサヌマ カツスケ (長) ハヤシ タカシ (長) ヒラスエ ヨシクニ (長) コナミ ヒロツグ (長) クドウ シュンイチ (長) ミナミサワ テルユキ (長) タバタ チャールス (長) タカモト ケイイチ (長) タナベ トヨハル (長) ウチヤマ マサノブ (長) ヤマダ トシアキ (長) ヨシダ ジロウ (長)



新潟に感謝する
松川支部長御一家

平和の福音の備えを足にはき

七月二十八日安息日の朝、私は横浜の支部に出席し、まだ神権会に時間があったので聖餐式での話を、もう一度復習していると息子の正和が「電話はお父さんだったよ」と知らせてくれたので、急いで出て見ると山田副伝道部長から新潟支部長の松川護兄弟が昨夜交通事故で足を切断したから、すぐ地方支部長の会の一員として松川兄弟を訪ねてもらいたいとのこと、私は直ぐ支部をとび出したが九時半の急行に遅れてしまったので止むなく上野駅で数時間待って一時十五分の急行で出発した。六時半新潟に着くと、すぐ支部に行き福島、五十嵐、大橋の支

部長会の兄弟たち及び宣教師一同と共に早速桑名病院を訪れた。事故直後の手術の経過がよく意識もはっきりと元気な松川兄弟の姿を見た時は、ほっとしたが学生時代からスポーツマンでならした堂々たる体躯に右足首の見えないのはほんとに痛々しく何と慰めてよいのか途方に暮れるばかりでした。つきそう年老いたお母さんの姿に眼頭の熱くなるのを覚えたのですが、傷ついた夫をいたわり守る毅然としたリツ夫人の姿を見た時、さすがは信仰に生きる姉妹、この突如と襲った大試練にも、よく主がこの信仰の御一家を守って下さることを眼の辺りに見て限りなき御同情の念と共に新たな感激に胸がつかまる思でした「信ずる者にはすべての事働きて益となる」

私がおんとに驚き感激したのはお二人とも今度の災禍をむしろ心から感謝して居られることでありました。お二人の間が如何に強く信仰と愛によって結ばれていることを自覚されたことに於て、又この試練を通して将来のきずなが如何に強められるか、大きな希望を以て立ち上がられることに深く感謝をして居られるのです。禍を転じて福となすとは誠に信仰に生きられるお二人の特権であるようです。

パウロは

「常に喜べ、絶えず祈れ、凡てのこと感謝せよ」と言われたが、常々信仰生活にいそしまれるお二人がこのような事ある時に臨んで、よく現れた、この聖句さながらのお姿が誠に尊く、私たち兄弟姉妹のよき模範として深く心に刻まれたのであります。

兄弟今度の事故には相手側にも落度があったようですが兄弟は只々自分が悪かったと深く悔改められ、又日頃から会社で人望が厚く兄弟はよく会社が退けてから帰途にもよく社用を果して行かれたの

で、この日は丁度教会の開拓記念祭が浜で行われる為、御家族を連れて行くとの一心から急いで居られて、構内の引込線の踏切りで起つた事故でしたが、兄弟の御家族の身の上を心配された同僚たちは公傷にすべく書類を整えられたそうですが兄弟はその厚意に感謝の涙を流されたのですか、義に生きられるお二人はそれを固く辞退されたそうです。

、五体の一つ亡びて全身ゲヘナに投げ入れられぬは益なり。

姉妹は毅然としてこう申されました。世の人は愛人と見るかも知れませんが、私たちモルモン人の鏡として又誇りとしてこのお二人の立派な態度は本天道部史上に輝く一頁として永く記念されるのではないのでしょうか。

この夜九時過ぎ松本支部での集会を終えた今井地方部長と小室兄弟が西山姉妹たちに導かれて病院に駆けつけて来られた。西山姉妹が火災の時松川支部長が如何に尽くされたか、新潟の会員たちは松川支部長の深い愛を身にしみて感じて居られるので入れ代り立ち代り病院につめかけて来られる。今井兄弟は祝福の言葉の中に、特に復活の時に松川兄弟が完全な体を回復されるようにつけ加えられたが私も自分が救われたような喜びを感じたのでした。不思議なことに、この桑名病院で松川兄弟の手術を担当された看護婦さんに、曾て十年昔渋谷の支部で今井兄弟から教を受けた求道者が居られ、今は地方部長として堂々たる貫録さに、若しや人違いではなかるうかと暫らくためらって居られたようですが、松川姉妹にたずねてやはり今井兄弟であることを知り喜んで名乗りをあげられたので、今井兄弟もその奇遇に驚き、早速宣教師を照介し今度は信者になられるようにおすすめて居られました。松川兄弟姉妹をすっかり喜ば

れ今井兄弟はこの看護婦さん（真島さん）に特に松川兄弟のことをよろしく頼みますと念をおして夜行で発たれました。私には残って翌朝もう一度お見舞してくれと言われたので私はその翌朝又お伺いしました。二晩目も徹夜の看護をされたのか、休まれた様子もなく病室から出て来られた姉妹の目は涙にうるんで居られた。

「ぐちやぐちやになったツボンのポケットから会社でいただいたボートの券が出て来たのです。真（息子さんの名）を始めて海につれて行くので余程嬉しく急いでと見えて……」

しばらくして私は冒頭の聖句をお見せして「これから御主人は好きなスポーツも以前のようには出来なくなるかも知れませんが、それだけ、教会と御家庭にそがれる時間が多くなるのではないのでしょうか。主はこれから大きく発展する新潟支部の為に、もっと多くの時間を兄弟に要求されたのではないのでしょうか」と申上げると姉妹は、

「そう言つて下さるとほんとに有難いです。今迄も主人のスポーツに就ては少からず心配をしていたのです（学生時代からあらゆるスポーツにチャンピオンであった兄弟はその為腰痛分離症となつて新大附属病院に一年近く入院し、その当時から新大病院の看護婦さんであった姉妹が付き添われたのが御縁で姉妹が教会に導かれたロマンスあり）会社の方でも主人を頼りにします。又主人も好きなものですからどんな忙しくてもあらゆる試合に出ていますので、若し又昔の病気がぶりかえしてはと案じていたのです。これからは会社も認めてくれるでしょうし、主人も教会のお仕事にもっと精を出すことが出来るでしょう。……」

生ける主よ、この信仰の御一家を守り給え、この御一家の将来にまた新潟支部の発展に限りなき恵みと豊かな祝福がありますように心の中に祈りつつ私は病院を辞しました。

神の王国の實現へ

組織から見た現在の努力の具体的目標



私たちは「教会へ行く」ということをもっているので、「教会」というと「教会堂」であると思ひこむ傾向があります。しかし「教会」が「教会堂」のような建物だけでないことはよくわかつていることであります。また「教会」は目に見えるものでなくて、キリストを信ずる人たちの心の中にある無形のものであるから「教会堂」は「教会」でなく、従って「教会堂」は必要でないとい説く人々もあ
ります。

私たちが教えられているように「教会」は「地上にある神の王国」でありますから、さきの二つの考え方はどちらも本当の「教会」の一面の姿だけを見ているのであって、完全な「教会」を知っているとは言えません。まことの「教会」は「地上にある神の王国」でありますから物心両面にわたる大きな組織であります。

日曜学校、聖餐会、聖書研究会、祈禱会、青年会、婦人会等々が「教会」であると思っている人々がありますが、これらは「教会」の活動のあらわれを見ているだけであって、その基になっている組織を見落しているのです。一つの会社を例にとってみても、本社支店、工場などがあり、販売部、企画部、宣伝部、製造部などがあってそこに社長、重役、部長、課長、係長などの管理系統ができて居ります。これが県という一つの自治体となり一つの国ともなれば、その「組織」はもっと複雑になります。「地上にある神の王国」もその通り一つの国でありますから、それ自身の「組織」があり、それ自身の管理系統があります。

私たちがこれまでに指導され教育されてきたことはまず第一に「神の国」の善良な民になることでした。そのためにはまず私たちの教会の標準聖典を読んで教義をおぼえ、神の誠命を守り行なう訓

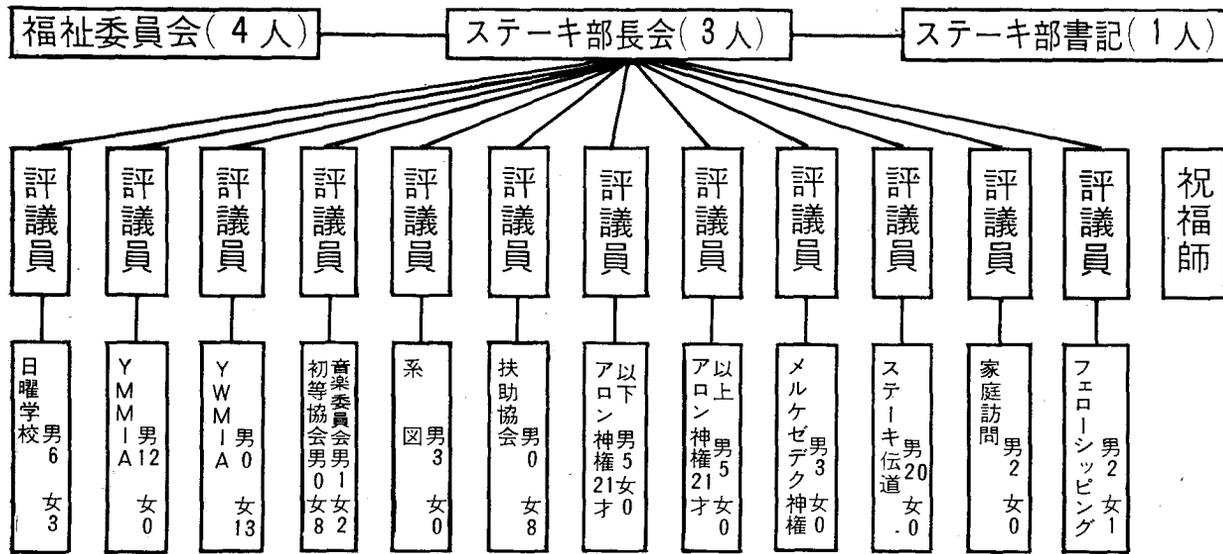
練をささかりました。それと同時に初歩の組織、すなわち補助組織（主として日曜学校とMIA）をつくってこれを正しく運営することと、聖餐会を正しく守り行なうことを指導されました。

次に会員数が増して支部の組織に必要な役員をそろえることができるようになって、支部長会（支部長、副支部長、書記）、日曜学校管理会（会長、副会長、書記、音楽指揮者、オルガニスト、教師）、子供日曜学校（責任者、書記、音楽指揮者、オルガニスト、教師）、Y M M I A（会長、副会長、書記等）、Y W M I A（会長、副会長、書記等）、扶助協会（会長、副会長、書記等）、系図委員会（会長、副会長、書記）が組織されて、それぞれの指導者のもとに支部の活動が管理運営されるようになりました。

つづいて地方部ができて地方部長会（地方部長、副地方部長、書記、評議員会が組織され、なお地方部補助組織指導者会（日曜学校、MIA、扶助協会） 地方部系図委員会、伝道部補助組織指導者会（日曜学校、MIA、扶助協会伝道部系図委員会） 伝道部第一および第二長老定員会等が組織されるようになりました。

しかし私たちがはつきり認識しなくてはならないのは、これは北部極東伝道部という伝道部としての組織であるということであり、まことの「神の王国」の組織は、支部、地方部がさらに来え、いわゆる発展解消して「ワード部」、「ステーク部」となったときに始めて現実にあられ、世の人にむかつて「きてごらんさい」と言えるようになるのであります。さらに神殿が建ち、学校病院が建ち、福祉計画が完全に運営されるときにこそ私たちは完全な祝福、物質と霊との両面にわたって「完全な教会」のもつ祝福を受けて楽しむことができるのであります。

(第一表) ステーキ部の組織



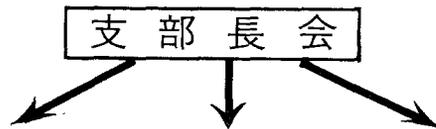
[メルケゼデク神権者79名, 他35名]

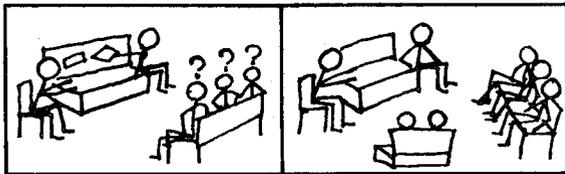
(第二表) 今何ができるか

会 員 達

時々、宣教師は外国人であるため求道者の必要とする事柄を探し出せない場合がある。しかし、会員たちはそれをおぎなうことができる。

(第三表) 今何ができるか





- A. 求道者を見つける
1. 友達を紹介すること
 2. あう全ての人に「黄金の質問」をする

- B. 求道者と共に働く
1. 共に断食する
 2. 共に祈る
 3. 彼等に証詞をする
 4. 彼らと共に集会（家族集会 普通の集会）に出席する
 5. 彼らと共に勉強する

バプテスマを受けた新しい会員に2週間以内に責任を与える。
全ての会員が責任を持つ

すべての兄弟が神権を持っていること。新しい兄弟は資格があつて6~8週間で神権を受けるようにすること

会員たちを養成すること。教師養成会を開いたり、与えられた責任をよく果たすことができるように訓練したる。

(約500人の会員——65人の大神権者)

(第四表) 今何ができるか

地方部長会

ホームティーチングを強調する評議員を選ぶ

フェローシップを強調する評議員を選ぶ

アロン神権プログラムを強調する評議員を選ぶ

地方部補助組織をステーキ部の組織と同じく完全に

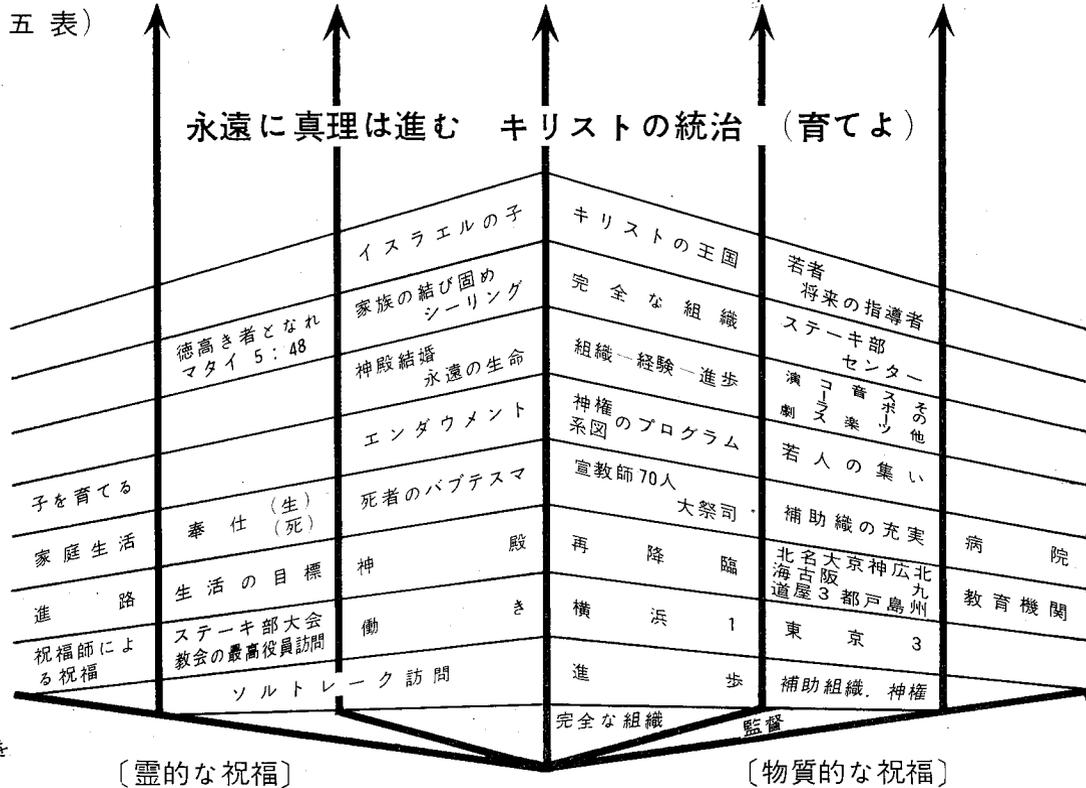
地方部補助組織の役員が支部を訪問したとき、はっきりした計画を持って関係のある支部役員と集会を開き具体的に訓練し養成すること

12人の評議員を選ぶ

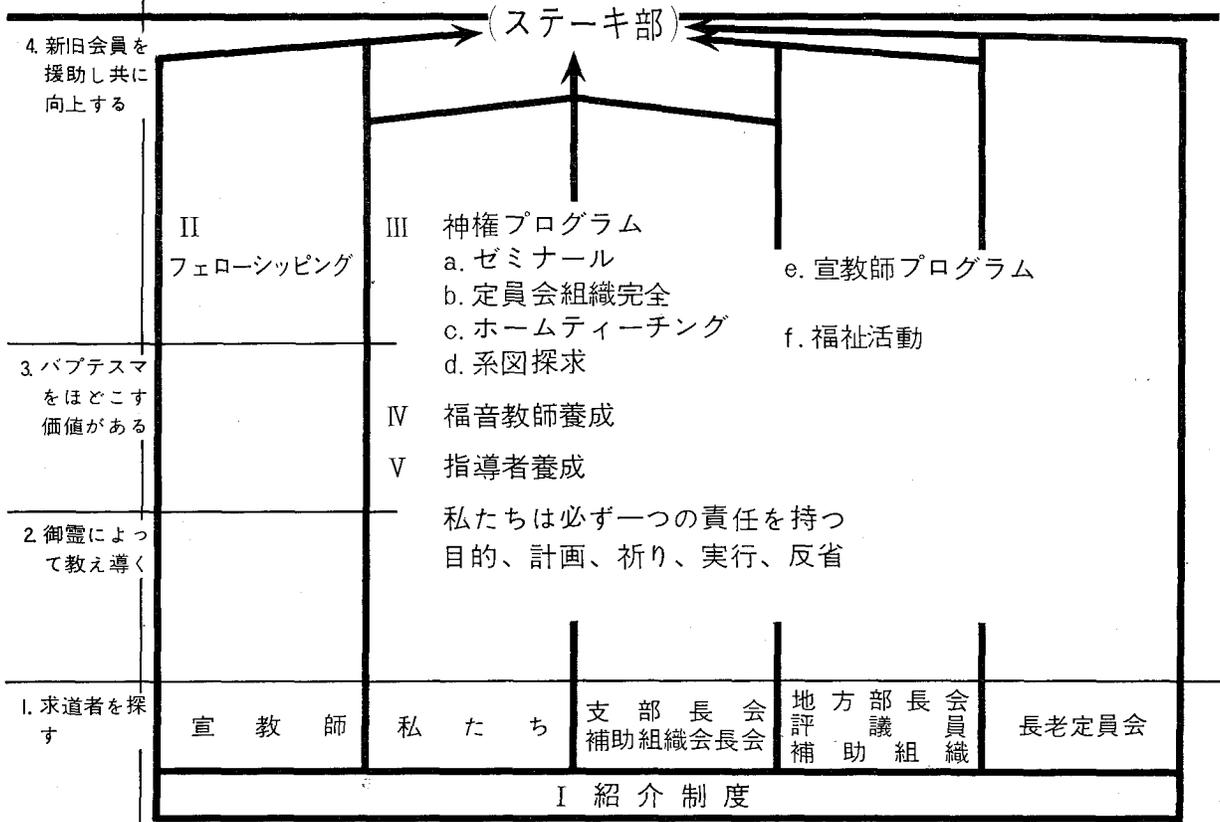
評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員
-----	-----	-----	-----	-----	-----

評議員は地方部補助組織役員と常に連絡を保ち、はっきりした計画を支部へもって訪問したとき、支部役員と集会を開き具体的に訓練し養成すること。

(第五表)



5. 聖徒の群を
広める



4. 新旧会員を援助し共に向上する

(ステーキ部)

II
フェロシップ

III 神権プログラム
a. セミナール
b. 定員会組織完全
c. ホームティーチング
d. 系図探求

e. 宣教師プログラム
f. 福祉活動

3. バプテスマをほどこす価値がある

IV 福音教師養成
V 指導者養成

私たちは必ず一つの責任を持つ
目的、計画、祈り、実行、反省

2. 御霊によって教え導く

1. 求道者を探す

宣 教 師

私 た ち

支 部 長 会 会
補 助 組 織 会 長 会

地 方 部 長 会 員
評 議 助 組 織

長 老 定 員 会

I 紹 介 制 度

従って、私たちは「神の王国」の実現に対する現在の努力の具体的目標として、まず「ワールド部」組織の完成、ならびに「ステーク部」組織の完成を目標としてこれに向って努力をすることであります。

第一表にありますように「ステーク部」には「ステーク部長会」（ステーク部長、副ステーク部長一人）、ステーク部書記一人、福祉委員会（四人）、評議員（十二人）および各評議員が受け持つ「日曜学校指導者」（六人）、「YM M I A 指導者」（十二人）、「Y W M I A 指導者」（一人）、「初等協会指導者」（一人）、「系図指導者」（三人）、「扶助協会指導者」（一人）、「アロン神権（二十一才以下）指導者」（五人）、「アロン神権（二十一才以上指導者）（五人）」、「メルケゼデク神権指導者」（三人）、「ステーク部伝道指導者」（二十人）、「家庭訪問指導者」（二人）、「フェローシップング指導者」（二人）および祝福師（二人）、以上で大神権者が少くとも七十九人必要であります。

さてこれだけの大神権者をステーク部に供給するためにはステーク部を構成する各「ワールド部」に少くとも五百人の会員と六十五人の大神権者がなくてはなりません。そのために「会員たちは今何ができるか、第二表を見て下さい。

このようにして、会員たちは第五表の I にある「紹介制度」に従って改宗者獲得の働らきを宣教師と協力して行ない、各支部の会員数をふやすことに努力します。こうして支部の中へ入ってくる会員たちに「支部長会は今何ができるか、第三表を見て下さい。

支部長会はまず新しく支部に入ってきた会員を旧会員となじませ喜んで責任をもって働らく会員となるように「フェローシップング

プログラム」を実施する組織をつくってこれを管理運営し実効を挙げるように努力します。次にすべての兄弟がすみやかに神権者となって支部運営の担当者となるよう、またアロン神権者はすみやかにメルケゼデク神権を受けるにふさわしい者となるように「神権プログラム」（内容、神権ゼミナール、ホームティーチング、定員会の組織完成、系図探求など）を実施します。次に「福音教師の養成」、「指導者の養成」を行ないます（第五表下段を見て下さい）。

そこで各支部におけるこのような活動を総攬し、有効な指示を行なうために「地方部長会は今何ができるか」第四表を見て下さい。

地方部長会はなるべくすみやかに十二人の評議員を選んでそれぞれに受持ちの部門を与え（第一表を見て下さい）、またこの評議員たちは地方部の補助組織の役員と常に連絡を保って、はっきりした計画をもって支部を訪問したときに、支部役員と集会を開いて具体的訓練と養成を行ないます。次に地方部長会は地方部補助組織をステーク部の組織と同様に完成するよう努力し、地方部補助組織の役員がはっきりした計画をもって支部を訪問したときには、関係のある支部会員と集会を開き具体的訓練と養成を行ないます。このようにして目的が達成されてステーク部（大てい四つから五つのワールド部から成る）が組織されたときに教会員はどのような祝福を受けることができるでしょうか（第五表を見て下さい）。

まず伝道部の支部は「ワールド部」となり、支部長は「監督」となって、それまで支部では組織ができなかった「祭司定員会」を組織することができます。またステーク部長、ステーク部祝福師等は「大祭司」でありますから、それまでになかった「大祭司定員会」もつくられ、また「七十人」も按手聖任されて「ステーク部」は「ス

（589頁に続く）

標を強くせん

菊也良考長光

イエスがオリブ山に坐ておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに來て言った「どうぞお話ししてください。いつ、そんな事が起るのでしょうか。貴方が又おいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」。

私たち回復されたこの美しき永遠の福音を聞き、日々踏み行う者として古代の十二使徒と同じような質問があるのではないでしょうか。使徒たちの質問に色々と末の日に起る事について御説明されました。

ペテロはテモテに宛てた書簡のでこのように述べています。「しかし、この事は知っておかねばならない。終りの時には苦難の時代が来る、その時人々は……」

自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、思を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者、融和しない者、そしめる者、無節制な者、横暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神より快樂を愛する者、心深い様子をしながら実を捨てる者となるであろう。こうした人々を避けなさい。

兄弟姉妹私たちの毎日の生活の中でこのような人々を見、そのような状態をよく見るのではないのでしょうか。

千八百三十一年十一月一日 特別大会がオハイオ州カートランドで開かれた時、主イエス・キリストはジョセフ・スミスに於てこのよう申されました。

「この故に、主の声は耳ありて聞かんとするすべての人々に聞かれないため地の果にまで及ぶ、されば汝ら備えをなせ、まさに来るべき事のために備えをなせ、そは主の來るは近ければなり。而して主の怒りは燃え、主の剣は天にてうらおいたれば、今やこの世に住む人々の頭に下されん。その時主の腕現われて、主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず、予言者にして使徒なる者たちの言葉にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日、来るなり」。

主は聖典の各所に再びこの地上に帰って來ることについて述べています。

全ての予言者も末日を見透して注意を促しています。イザヤは「去れよ去れよそこを出て、汚れし物にさわるな、その中を出よ、主の器をになう者よ、おのれを清く保て」。

主は末日に聖徒が世の汚れに染まらぬよう教義と聖約の中で「また汝ら悪しき人々の仲間より離れよ。己れ自からを救え、汝ら主の器をもてるものは潔くあれ、誠に然り、アーメン」。教義と聖約三八(四二)

そして主は末日に生きる聖徒たちに向い!! ステーク部に集合すること。と申しております。「広く全世界に散在せる、末日聖徒イエス・キリスト教会の全長老達よ、わが教会は末の世に於いて須らく末日聖徒イエス・キリスト教会と称えられるべし、誠にわれ汝らすべてに告ぐ、汝ら起ちて、己が光を輝かせ。これ汝の光よるずの国民のはたじるとならん為シオンのステーク部に集合すること、一つは防禦のためとなり、憤りのありのままに、全地に注がる時に一つの避所ともならんためなり」。

ここで私達は己が光（私達の光）を人々の前に輝かさなければならぬと申しております。主は古代の聖徒達にも同様の事を申されました。「そのように、あなたの光を人々の前に輝かし、そして人々があなたがたの良い行いを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」。

それと同時にステーク部に集るべきであると申しております。ステーク部に集ることは末日の聖徒に与えられた誠命であります。

そしてその聖徒達が集る場所が強くなるように、モロナイは今亡びた同胞の事を思いつつ、決して悪と罰によって亡びる事がなきよう、またモルモン経を手にするであろう人々に「あなたたちは御許へ来て一切の善き賜物をつかめ、悪いたまもの、または汚れものにかかわってはならない。……」

エルサレムよ、目を再び散り乱れないよう。また永遠の御父がイスラエルの家に立てたもうた誓約が果させるよう。その美しい衣を着、その杭を強くせよ。またとこしにその界を広くせよ。モロナイもすべての霊から離れキリストの恵みにあずかりながら、杭、いわゆるステークを強めよ!! と申しております。

イザヤモこれと同じ事を強調しております。

「あなたの天幕の場所を広くし

あなたの住いの幕を張り、ひろげ

惜しむことなく、あなたの綱を長くし

あなたの杭を強固にせよ」。

イザヤ書五四章二節

これまでの話から私達は今何をしなくてはならないのでしょうか？

兄弟姉妹、杭つまりステーク部を組織できるように準備しようではありませんか？

ではステークとは何んでしようか。

古代イスラエル人が夜営する時、テントを張った。そのテントを支える為に使った杭を、ステークと呼んだそこからステークという言葉が生れたらしい。——イザヤ書五四章二節——

また主自身が聖徒達が集る場所を称してステーク部と呼んで

「ざれどついに聖徒達を容るる余地なき日來たらばその時われ彼らに指定すべき他の場所あり、而してこれらの地はシオンのあげ幕またはシオンの力となる為ステーク部と呼ばれん」。教義と聖約百一章二一節

また、シオンとは何んでしようか。

「故に誠に主かくの如く言うシオンよ喜べ、そはこれこそ、シオン心の清き者なればなり」。

兄弟姉妹のみなさま、ステークを伸ばすが組織して下さるよう

に、頑張ろうではありませんか!! 各地方部長会はステークになる

為、支部長会はワード部になる為、私達会員は一人一人がシオンとなるように努力しようではありませんか。

神の王国を整えようではありませんか。

杭を強くし、花むこが来る備えをなそうではありませんか。京浜地方と関西地方は各地方が集まっていますので東京中央、東京南、東京北、東京西、横浜、群馬の各支部が一緒に連絡し合って熱心に努力すれば確かに東京ステーク（江戸の杭）ができることでありましょう。

また関西では京都、西の宮、三宮、岡町、阿倍野を中心として大阪の「杭」をも組織されるであります。またこのステークは大きくなり将来二ツ三ツとわかれるであります。

いつかわ札幌、仙台、名古屋、広島、福岡を中心とし同じ「杭」が組織されるであります。

モルモンは民が強情であるにもかかわらず、熱心に勧めようと息子のモロナイを励ましてこのように言っています。

「しかし私の愛する子よ民が強情であるにもかかわらず私達は熱心に努めようではないか。

私たちは一切の義しいことに敵する者に勝って神の王国で私達が安息につくために、この肉体を持っている間になさねばならぬ務めがあるから、もしその務めを怠るならば罪のある者とされなくてはならない。」

兄弟姉妹達よ!! 私達もモルモンやモロナイの様に勧め励もうではありませんか?

末日の悪に立ち向う為、まずステークを建てようではありませんか。また私達の同胞が悪によって亡び去らないように、悪魔の策略

に立ちうる為には神の武具を身に固め、杭の上に立とうではありませんか?

ペテロはこのことを

「私たちの戦いは血肉に対するものではなく、もろもろの支配と權威とやみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦である。それだから、悪しき日において、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の物具を身につけなさい。すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それを持って、悪しき者の放つ火の矢を消すことができる。また救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。絶えず祈と願いをし、どんな時であっても御霊によって祈り、そのため目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつけなさい」。エペソ書六章一二節〜一八節。

イエスキリストの御名によって、アーメン。

(588頁より続き)

「テーク部宣教師プログラム」を実施することになります。これによって、「ワード部」になる前に支部で働らいていた宣教師はことごとく地方の支部へ移って伝道をするようになりますから、地方の宣教師活動はそれだけ強化されます。

またステーク部長は毎年ソルトレーク市で開かれる教会の総大会に出席をし、ステーク部の大会には教会の最高幹部が出席されます。その上、ステーク部の組織が完成して運営が活潑に行なわれるときには「福祉プログラム」も活潑に行なわれて、すべての会員は「神の唯一のまことの教会」の強いあかしをもつのであります。詳細は第五表を見ていただきます。

訪問教師のメッセージ

(千九百六十三年九月の第一週に)

貴方の伝道責任

もしも貴方が「貴方はなぜ教会の会員なのですか」と問われたら貴方はどう答えますか？ 大部分の人が「私は教会で育ちましたから」とか或は又「私は教会の教義を研究し、それが真理であることを発見し確信を持ったからです」と答えるでしょう。どちらも適当ではありません。けれどもそれは一部しか伝えて居りません。実際に私たち殆どが宣教師が私たちに来たか、又はその昔私たちの先祖を訪れた為に会員になっているのであります。

伝道の仕事は神の仕事であります。それは神性な教会のしるしの一つであります。それは教会と同様に古いのであります。時の絶頂の救主の時代に彼は十二弟子に命じました。
「あなたがたは行って、すべての国民……に教えよ」(マタイ伝二八・一九) 今日彼は同様の勧告を教会会の長老たちに与えています。(教義と聖約 五八・六四 八四・六二)
現在一万二千人以上の宣教師が外地の伝道に

奉仕して居ります。この数では福音を世界にもたらすには不充分であります。この価値ある目的を完遂する為には私たちの勢力を倍加せねばなりません。それにはステーキ部、ワード部の指導者、両親、青年、若い指導者、メルケゼデク神権定員会役員及び会員、並びに教会の全会員が目標を立て達成する為に一致協力せねばなりません。家庭はその子供たちの心に宣教師になりたいと言う望みを植えつけるのに理想的な場所であります。これは彼らがまだ幼い内になされねばならないすべての青年は満十九才になったら伝道に出かける目的を持つべきであります。

宣教師の働らきは教会の血管であります。それは不断に、教会に新しい改宗者をもたらす責任があるばかりでなく教会内で働らいている人の活動を刺戟する責任もあります。この宣教師の働らきは与える人も受ける人も共に報いられます。宣教師は、その知識を与えます。改宗者は受ける方で彼の宝庫はその保護者と同等に充たされます。その行程に於て宣教師の倉庫は減少せず寧ろ増加して、豊富

になり、両者の心は新しい喜びに溢れるのであります。

伝道の働らきの価値はその果実に現れます。宣教師の生活に示された以上の模範的な性格及び勇らしさを何処に見出すことが出来るでしょうか？ 彼らの精神にふれ、その熱烈な証詞を聞く以上に感動することがありますでしょうか？ 福音によって改宗者の生活にもたらされた変化の証明以上の奇跡がありませんか？ 彼らの生活方法は屢々完全に変わってしまったのであります。

伝道の働らきは祝福のプログラムであります。直接又は間接にそれに結びついているすべてが益を受けるのであります。宣教師、彼の両親、家族、友人改宗者、教会、社会、国民世界が、この働らきの高める影響を受けて進歩改善されるのであります。教会の宣教師制度の伝統を維持し、現在及び将来の必要に応じられるようその可能性を増大させることは、私たちの責任であります。

訪問教師のメッセージ

(千九百六十三年十月の第一週に)

神権の鍵

神権の作用との關係に於て、その鍵の機能が必ずしも常に理解されて居りません。神権を帯びることと神権の鍵を持つことには相違があります。ジョセフ・F・スミス大管長

は、この相違を次のように説明して居ります。要するに神権は人が神に代つて行為する神に与えられた権能であります。如何なる程度の神権に委任された者でも彼に委任されたこの権能を持って居ります。けれどもこの権能によって執行されるすべての行為は適切な時に適切な場所でなさねばならない。そして適切な方法により適切な秩序に従つてなされねばならない。この働らきを命ずる能力が、神権の鍵を構成して居るのであります。

(ジョセフ・F・スミス福音の教義)

神権の鍵を持つている者の上に、この地上に於ける、神の王国でそれを命ずる能力が授けられて居るのであります。この全能力、神権の鍵及び権能は一時に一人の人が持つてい

ます。教会の大管長はこの能力が集中しているものであります。彼のみが中央管理会、伝道部、ステーク部、ワード部、支部及び教会の定員会役員に、この鍵を委任する権能を持つて居るのであります。

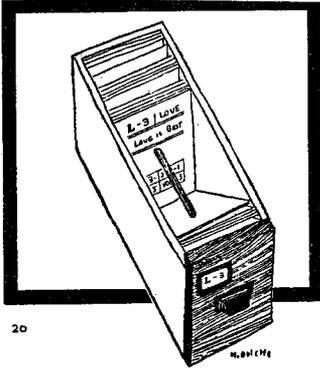
世界に福音を説く権能は十二使徒の上にある、この使徒たちは、この働らきを命ずる権能を持つて居るのであります。伝道部長及びステーク部長はそれぞれの地域内に於ける権能の鍵を持つて居るのであります。ワード部の監督支部の支部長はそれぞれワード部及び支部の範囲内でこの鍵を持ち定員会の会長は支部の働らきに指示を与える鍵を持つて居ります。人が神権の職に就いていても、他の人にその執行を委任する鍵を持つて居る人によって許可されない限り、儀式を執行することは出来ません。これら神権の鍵を持つて居る者は儀式の執行を許可する権能を持つて居るばかりでなく、何時でもその特権を取り去ることも出来るのであります。

他の神権時代の頭であつた予言者たちは予言者ジョセフ・スミスにこの鍵を回復しまし

た。彼らの内にはアダム、モーセ、エライヤス及びエライジャヤが居ました。ジョセフ・フィールディングは、エライジャの回復した鍵に就て言つています。

エライジャはこの教会に、そしてこの世の人が受けようとするならこの世の結び固めの能力の鍵を回復したのです。そして結び固めの能力はこの教会で、特に主の神殿内で執行されたすべての儀式に認めめの封印を押すのであります。(一九四八年四月大会報告 一三五頁) この教会の儀式は天にその起源を有しています。正しく権能を与えられた人によって適切な時に適切な場所で適切な方法によって執行された時は、それらの儀式は地上及び天上に於て結び固められることを知る事は確信を新にします。神権の鍵の作用を通じて神性なる承認が与えられ混乱は避けられ、権威者に対する非難は除去されるのであります。

系図の道しるべ



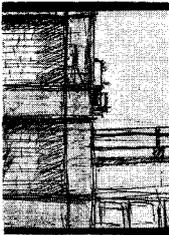
20

通信による系図探求 (三)

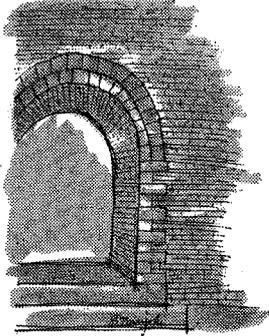
遠縁の血族と通信する際に貴方は彼等が貴方程熱意を持っていないことを念頭に置いて貴方の要求を彼等の現在の関心に結びつけるように求めなさい。最初の要求は彼等が答えるのにあまり困難でないようにすべきである。一度にあまり多くを要求すべきではない。今日までの情報を上手に使っていんぎんな友好的な通信を採用せよ。我々は真の系図通信技士となる迄専門家されるべきである。

家族通信の十則

- 一、賢明な眼識を以て貴方の通信する人々を選びなさい。
- 二、いんぎんにはっきりと貴方の望む事実をたずねて手紙を閉じなさい。
- 三、卒直に正しく要点を述べる。
- 四、貴方のなしている事及び貴方の家族の詳細は歴史を述べるような長い複雑なたいくつな散漫な手紙を避けよ。
- 五、必要な場合に印刷された表及び家族の記録を回答の為に同封して他人の貴方を授ける便益に資すること。
- 六、援助を頼むと同じように援助を与える申出を確実になすこと。彼等が希望する資料を探すのに必要な努力をなすこと。



- 七、切手の用意された公務員に書く場合以外は常に返信用の切手を送ること。
- 八、貴方が入手できる、そして貴方自身の為に探す事の出来る情報の編集を他人に頼んではならない。
- 九、貴方が貴方の通信者に望むと同様の迅速さを以て回答しなさい。
- 十、すべての発信、受信の写しを通信ファイルにアルファベット順に保存せよ。



10 月 用

十月十三日(日)は

「日曜学校基金募集の日曜日」

毎年九月の第三日曜日は、全世界の支部、ワード部で「日曜学校基金」を募集するよう大管長より指令が与えられております。日本では丁度この時、地方部大会などがあって都合の悪い支部もありますので十月十三日を「日曜学校基金の日」としました。どうしてもこの日に基金募集ができない場合は十月中に必ず行なって下さい。これは伝道部長から各支部長には特別連絡されませんが、日曜学校会長より支部長に了承を求めて下さい。どうしてもやれない場合、支部長が承認しない場合は上野あてに御連絡下さい。北部極東伝道部では皆様の負担にならない金額として一人五十円を標準としておりますが、勿論これは自由意志で十円、二十円、あるいは百円でもよいわけで強制してはなりません。この献金を成功させるためにはこの趣旨を書いたチラシと封筒を前の週に渡すのも一方法です。なお名前の記入は必要ありません。八月十日現在今まで皆様から寄せられた基金の収支残は七

百円弱で来年度に繰越されます。去年九月より今年の八月まで使ったお金は約十万円です。そのようなことに使いました。詳細は後で報告する。

1. ユタ本部の「デゼレト日曜学校」で発行している視聴覚教材の見本(三万円)
2. 日曜学校ノート一冊負担金八円(三千冊で二万四千元)
3. ガリ版一式、レツスンガイド印刷、送附に必要な経費(二万円)
4. 紙芝居を全国に回覧、贈呈(二万円)
5. 地方部大会などで日曜学校伝道部の方針の伝達、及び支部、地方部の指導者の要求、質問を受けるために必要な旅費(二万円)
6. 雑費(六千元)

どうか使い方に御不審をお持ちの方、御意見を下さみたい方は上野までお便り下さい。

東京都中野区江古田二の九九五

上野道男(伝道部日曜学校会長)

「私たちは次のようにして自分自身と隣人を助けることができる」



雇用者には労働者を，失業者には
職をみつけてあげる

私たちは教会の組織や仕事を
通して隣人に奉仕しお手伝い
することができる



年輩の会員からその体験を語って
もらう



身体障害の会員に医療を受けさせ
適当な仕事を紹介してあげる



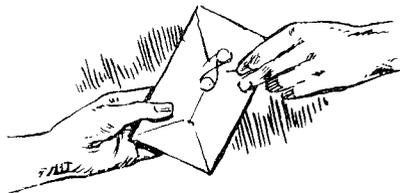
家賃の不必要な自分の家を持ち、
少なくとも1年以上の食糧、衣服、燐
料などの日常必需品を貯えておく



医療に必要な看護，出費の面倒を
見，精神的援助も措しまない



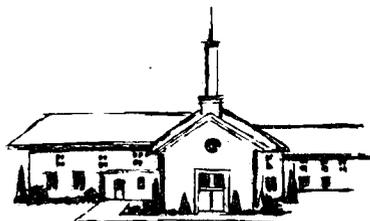
家族の人たちと親しく話し合う



断食献金やその他の献金に快く応じる



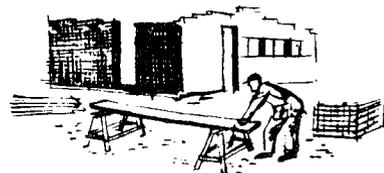
食糧や必需品を作る



教会の備品を買うための必要な資金を作る



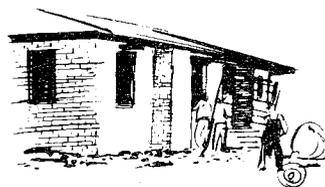
仕事にまつわる問題の相談に応じる



教会の建物や備品をいつも清けつに整備しておく



教養を身につけ職業的才能を更に訓練させ成長させる



教会堂建築に勤労奉仕を喜んでか
ってでる



貧しい人,困っている人,病人に,
支部長を通して贈物をする



ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

若いということは何というすばらしいことでしょう。そして若い女であるということは何にくらべることもできない喜びではありませんか！若い女はだれでもみんな女王さまというのが、純潔と夢の国の中に住む彼女独特の流儀です。若い女の子はたのしい夢を見ます。同じクラスの男の子の夢、となりの家の男の子の夢、そのほかただ自分が考えてみるだけの男の子の夢。男たちは女にとってたくさんの意味があります……男たちは父親である……また祖父である……男たちは兄弟である、いとこである、叔父である。男の子は女の子の友だちになる資格があります。高等学校に居るうちや大学の始めの年ごろに、婚約とまで行かずまたは深刻にならずに、毎年数人の女の子と友だちづきあいをする男の子たちは賢くもありまた役に立ちます。こうした友だちづきあいはいつも一人一人の男の子や女の子にとって洗練された社交

の経験になります。またこうした友だちづきあいは、いつも女の子たちにとって自分たちやほかの男の子たちを理解する機会となり、女の子同志の友情や男の子同志の友情の多くから受けるほんとうの喜びを知る役に立ちます。女の子たちもまた一人の女の子の生活にとって大へんたいせつであります。女の子たちはまた女の子たちの友だちになる資格があります。それでですから、女の子たちはどれでも多くのすぐれた女の子たちと交際するのが当然です。しかし相手の女の子たちは最もりっぱな人格と気高い霊の持ち主でなくてはなりません。人は友だちのようになりがちであるからであります。

そして……男の子たちは、女の子たちが大学に居るときまたは伝道生活を終ってから、何年もの間つきあってきたりっぱな友だち全部の中から意中の人として一人を選び出すそのすばらしい日が来るまで、楽しく時をすごすために、またその人がらを吟味するためにあるのです。知っているとおり、男の子たちは女の子たちを花よめにならせます。そして男の子たちは、女の子たちの夫となり子供たちの父親になります。ほんとうに、真の末日聖徒の家庭では、父親が家庭の中の王であり母親が女王であります……

しかしこれらの夢と、これらの夢が現実になる時との間には、多くの日と月の年とがあります。そしてこれらの年のうちに、女の子は最も注意をして自分の将来をつくらなければなりません。なぜならば、彼女は自分自身といっしょにまた自分のつくる家（または霊）といっしょにいつまでも住まなければならぬからであります。それでですから、彼女は自分の肉体も霊も、いつか自分自身の家族と家庭とを正しく管理ができるように賢明に強くし始めなければなりません。

(一) 彼女は美を強化しなければならない。

彼女の目は自然の美、神の地球の上にある永遠の創造物をながめなければなりません。あらゆる花、あらゆる草の葉、神のつくりたもうた万物は美を語っています。すばらしく調和した色彩がまじりあっているなかに美があります。彼女は生け花、園芸、そのほか上品にもてなすことができるために美しく用意した晩さんの食卓の道具立てをする方法を学びたいと思うにちがいません。ことばもまた美しい思想を伝えるものであって、また霊の美しさを伝える役に立ちます。彼女は詩から学ぶことのできるものがたくさんあります。しかし、彼女の霊の幕屋の美しさにまさるものは何もありません。それは彼女自身の愛する「天の父なる神」であるつくりぬしがおつくりになった美しい宮であります。「父なる神」は彼女の霊が宿るすばらしい建物である彼女の肉体をおつくりになりました。その貴い肉体を何ものもけがしてはなりません。初等協会の歌にあります「わたしのからだはお宮です。いつもだいにまもりましよう。わたしの霊がすむように、いつもきれいにいたしましよう。いつもきれいにまもるなら、わたしのこころもつくり」。

(二) 彼女は愛を強化しなければならない。

彼女は自分の楽しむためと成長のために、鳥けもの、昆虫、そのほか神のつくりたもうた万物を愛する愛を強化しなくてはなりません。彼女は自分の安全を守るために神がつくりたもうた永遠の単位である家庭をつくる人々、父母兄弟姉妹を愛する愛を強化しなければなりません。また親戚友だちを愛する愛を強化しなければなりません。

(三) 彼女は上機嫌と協力と親切とを強化しなければならない。

(四) 彼女は肉体の必要とするもののために心を使うことを覚えなくてはならない。

彼女はりっぱな母となるために強い体をつくるに必要な正しい食事をとるよう、肉体の必要とするもののために心を使うことを覚えなくてはならない。また、朝はすがすがしい気持ちで、笑いながら歌いながら早く起きるよう、よく眠ることを覚えなくてはなりません。

(四) 彼女は清潔と、小ざっぱりしていることと、きちんとすることの習慣を強化しなくてはならない。

今すぐそれをしなさい。そしていつか自分の家庭のためになるよう、これらの習慣をつづけることを覚えなさい。

(四) 彼女は自分の体を清潔にすることが大切であることを学んで知らなければならない。

いつもかがやくように晴れやかにきれいであるために。そして、自分の体を清潔に保つ道具、たとえば歯ブラシ、石けん、シャンプー、スキンローション、防臭剤、髪ブラシなどをいつも忘れないで、上手に使わなくてはなりません。

(四) 彼女は料理法を学ばなくてはならない。

未来の夫であり家族の王である人を喜ばすために。また彼女は自分の家族に適切に栄養のある食事をさせるために、食料の一定量を安く上手に買うことを覚えなくてはなりません。

(四) 彼女は未来の家族の着物をつくることができるよう、裁縫が上手になるように学ばなくてはならない。

(四) 彼女は上品で美しい踊りがおどれるように、また良い音楽を鑑賞することができるように学ばなくてはならない。また讚美歌

から子守歌に至るまで演奏ができるように学ばなくてはなりません。

(H) そして、彼女は本当に聖典と良い書籍を読んで得た知識と聰明さとを強化しなければならぬではないか。

文学の世界はみ惑と靈性と強い真実の確信を得ることに満ちているそれ自身の世界です。「汝ら最も善き書より知恵ある言葉を探し求めよ」(「教義と聖約」八十八〇百十八参照)。

(I) 彼女は信仰と祈りを強化しなくてはならない。

聖典の勉強と共に、教会の集りに出席することはひじょうに大切であります。主はかつてお言ひになりました「われに近づけ、さらばわれ汝らに近づかん。熱心にわれを求めよ。さらば、汝らわれを見出さん。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かるることを得ん。何にてもわが名によりて御父にねがうところ汝らのため必要なることは汝らに与えらるべし」(「教義と聖約」八十八〇百十八)。

(J) 彼女は探求と勉強と自分が予定と計画に従うよう訓練することの本当の喜びを学ばなくてはならない。

これらをやりあげたときの満足を知るためであります。彼女はおそらく看護婦か、学校の先生か、秘書か、宣教師になるでしょう(何になっても以上のことが必要です)。

(K) それから一番おしまいに「美しい花よめになるために」学ばなくてはならない。

そして、この上ない喜びと、満足と歓喜と、神権を保持しこれを尊んでいる自分の永遠の伴侶と共に居る楽しさを実現するようにならなくてはなりません。それから、母であることに近づき、つづいて自分の子供を自分の腕の中に抱くすばらしい感じを知るように

ならなくてはなりません。これは女性としての無上の光栄であって、彼女の結婚は清く美しく永遠につづくにちがいありません。

このすばらしい国にいざっしゃる、私の最も愛するお友だちよ。いつかあなたがた一人一人は、あなたの夫とあなたの子供たちにとって女王となるにちがいありません。しかし、まず第一にあなたがた一人一人は私が前に述べましたように、すべてのことを喜んで学び、完全な妻となり、母となるように本当の準備をしないでなりません。神さまは。その子供たちですべてのことがあまりにたやすく成就するように計画なさいませんでした。しかし神さまは、あなたがたが良い習慣と態度とをつくりあげて神のみまえに戻れるように本当に望んでいらっしゃいます。それでですから、愛する姉妹たちよ、どうかあなたの生き方によく気をつけて下さい。あの静かな小さい良心の声に耳を傾むけるようになって下さい。あなたの教会の指導者か模範になる生活を送っている親切な女の方から、けっしてちゅうちよせずに助力と忠告を求めて下さい。ほかの人たちがあなたの中に霊を高めるもの、すばらしいもの、良いものをすべて見るように、あなた自身を清く純く保つ重大な責任を神さまの前にもっていらっしゃるからであります。

これを今すぐに為しとげる最もよい方法はいくつもありますが、その一つは次の通りであります。それは、宣教師に主なる神さまと結んだ誓約を破らせるようなことばや行ないや暗示は何一つけっしてしてはいけないということです。この国へ来る宣教師の一人一人は、来る前に、神さまの使いになって福音を宣べ伝え、悔い改めを説き、自分自身を世の罪でけがさない、主なる神さまに誓約をいたしました。宣教師はこのように主なる神さまをとくべつに代表す

る者でありますから、伝道部で働いている間中、生活と行ないを守る役に立つべきしい規律と規定とを守らなくてはなりません。たぶんあなたがたの多くはこの規定がわかっているしやらないと思いますから、そのうちのいくつかを知っていただきたいと思いません。それは、神さまが宣教師に望んでいらっしやるように宣教師が実行すと助けとなるため、主なる神さまの手先きになって働らくためであります。

(一) 宣教師は一人のこらず克己自制と自己訓練の力を発達させるようにうながされています。そして、これをするために宣教師は次のような実行規則を与えられています。

(一) 宣教師はいつも同僚と共に行動しなければならない。宣教師はどこへもけっして一人で行ってはいけない。宣教師は同僚と共に食事をし、眠り、旅行をし、集会を持たなくてはならない。宣教師は、時と所と事情とを問わず、けっして異性と一人だけで居てはならない。宣教師は握手をし、バプテスマをほどこし灌油の儀式を行なうときのほか、いつでもけっして異性の体到手をふれてはならない。宣教師は自分の働らいている伝道部内の異性の会員、求道者もしくは友人にどのような型式の手紙でも書いてはならない。宣教師はどんなやり方でも姉妹をからかったり、ふざけたり、姉妹が愛着を示すことを力づけたりしてはならない。

(二) 宣教師はどのようなダンスもしてはならない。宣教師は遊泳、ボート漕ぎ、オートバイ乗り、スキーをしてはならない。宣教師は伝道部長の許可なしに、任地である支部の地域をはなれてはならない。

(四) 宣教師は大声や、やかましい騒音を立ててはならない。または大きき、すもうとり、屋内でのばか騒ぎがあつてはならない。宣教師はその同僚に対してはいつも「長老」とよびかけ、姉妹の会員と婦人宣教師に対してはいつも「姉妹」と呼ばなくてはならない。

またいろいろの活動については次のように言つてあります。

(一) 会員はけっして宣教師の宿舍または支部建物の中にとまることが許されない。会員たちが別の支部から夜おそくにくることがあつても、宿屋または別の会員の宅へとまらせるように手配をすべきである。午後九時三十分後には、一人の求道者も会員も支部建物内もしくは宣教師の宿舍にとどまつていてはならない。

(二) スポーツ、観光そのほかの個人的娯樂のような活動はほかの宣教師と一しょに団体活動をするときだけゆるされる。マッケイ大管長は、宣教師たちが会員や求道者と一しょに映画館、演芸館またはそのほかの娯樂センターで娯樂を求めないことを望んで居られる。転任もしくは大会のために旅行をするときのほか宿泊旅行をしてはならない。そして、かならず同僚と一しょに宣教師宿舍の同室で眠るべきである。ホテルやキャンプにとまる宿泊旅行はゆるされない。

(三) 過去においては、宣教師たちが求道者と共にいろいろの活動に加わることが強調された。これをわれわれははっきりと認めているが、現在では、教会の大管長会は、求道者を支部の諸活動で会員たちと親しくならせるよう最大の努力を為すべきであると思つて居られる。それであるから今は家庭集會と、宣教師が

後援する活動よりはむしろ支部が後援する活動を通して、求道者を支部と一本にするために努力をするべきである。

四 宣教師は単独で求道者と家庭集会を開いてはならない。宣教師はどの家庭集会でもかならず自分の同僚を、しよに居らせるべきである。

このほか、宣教師が実行して自分自身を指導するはずである規則がたくさんありますが、以上引用したのは当伝道部の姉妹たちに関係があると思うものであります。宣教師たちは今、主なる神からたまわる最高の祝福を受けるねうちのあることを証明するため、克己自制を学ぼうとして居ります。同様に末日聖徒である婦人もしくは若い女の方々は一人のこらず、主なる神さまがお喜びになるように、自分を指導することを心にかけてねばなりません。神の祝福を受けるためにはまず準備が必要であり、つぎに正しい生活が必要であります。いつか気高い立派な青年を夫としてもつにふさわしいためには、あなたもまた自分を世の罪でけがれないように保ちたいと思うにちがいがありません。もしも、今述べた規則の一つでも宣教師に破らせた責任があなたにあるならば、主なる神さまは、その宣教師と全く同様にあなたにも罪があるとおきめになるにちがいがありません。私たちの教会には二重の標準はありません。姉妹たちよ、あなたは感情をもてあそぶような、貴婦人らしくない、暗示的な誘惑をすて、または宣教師に、宣教師としての献身と働らき以外のことをすこしでも考えさせることばや行ないで誘惑することをすて、毎日毎日を克己と自制に努める日として下さい。主なる神さまは、私たちの生活を完全なものとするように実行するためすべての誠命を下さっています。昔の予言者は申しました「服従はぎせいにまさり

聞いて従うことは肥えた雄羊よりもまさる」と。





母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯 (十一)

第二十一章 ジョセフ・スミス(初代)自分の農場を失う。ジョセフ・スミス(二代目)の結婚

私の夫がベンシルベニヤへ出立してから、数日の間私は息子ジョセフの花よめを迎えるために家の中を整理する仕事にかかっていたが、私はその仕事をする際このようなどきどきの母親でも感じるような誇りと大きな望みとをすっかり感じていました。

これよりさき、私の長男ハイラムはだれに比べてもひげをとらないうすぐれた娘と結婚していますが、私はこの長男のよめのことを大へん喜んでいましたから、このよめとの交じわりから受けるとおなじ幸福を息子ジョセフのよめからも受けたいものと思っていました。そのようなしあわせを受けては悪いという理由はすこしもありませんでしたから。

註。ハイラムは千八百二十六年十一月二日、パルマイラのジェール・シャ・バルデンと結婚した。

ある昼さがり、私はすっかり整理をしようとして、腰をおろしてひじょうに良い心持ちであれやこれやと考え始めました。天気はすばらしくよかったし、それだけでもひとりでの愉快な気持ちになるのです。そのうえ、まわりの情況はみんな調和しているように見えて、心が静かなときにはだれでも受ける理由があるなだめるようなこころよい情緒が胸の中にあるのを助けているようでした。このように私がじっと考えこんでいたとき、わけても静かな安楽な老い先きのことを考えこんでいたとき、ちょうど家へ入りかけていた三人組の見知らぬ男に突然私の注意がとらえられました。この男たち

が近づいてきたとき、見るとその中の一人は、当時私たちの住んでいた家を建てた大工頭のスッタート氏でした。

この三人が家の中へ入ったとき、私は腰をかけてもらってまず知りたりの会話を始めましたところ、間もなく三人の中の一人が、私にいろいろのことを聞き始めましたが、私はどちらかと言えばそれは失礼ではないかと思いました。この男は、私たちが農場の代金をすっかり払ったかとか、家を売る気がないかとか聞いたあげく、スミスさんと息子さんはどこへ行きましかたなどたずねました。

「家を売るんですって、どういまして、家を売るわけなどございませぬ。権利書をとるために必要なりきめは全部すんでいますし、また代理人の方とも了解がすんでいますもの。こういうわけでございますから、この件については私たちが全くだしかであることがおわかりでございますよ」と私は答えました。

これに対して三人とも一言も返事をしないで、ちょうどその時家へ来かかっていた長男のハイラムと会うためにそとへ出て行きました。そしてハイラムに私にたずねたと同じことをたずねましたが、ハイラムも私が答えたと同じことを答えました。三人はこのように得心がゆくまで聞いてみてしまうと、私の息子に告げ始めました。あなたはこの農場についてこれ以上心配する必要はない。と言うのは、われわれがこの地所を買って代金を払ってしまったからである。それであるから、今後農場の上にあるものには、何一つ手にふれることをあなたに禁ずる。またわれわれは、あなたがたがただちに立ちのいて、法律上の所有者の手にわたすことを警告する、と。

この会話は私の聞えるところで行なわれしました。それで私は、三人の男が家の中へもどつてくるとハイラムに言いました。「ハイラ

ム、あれは本当かい。でなければ私たちをびっくりさせるふりをしただけなのかい？」。しかし、この三人の男たちの顔を落ちつて一見見たとき、私はこの男たちの鬼のような決意をはっきり見て取りました。私はすっかりうちひしがれ、ほとんど感覚を失なって椅子の中へ倒れこみました。

私がもとにかえったとき、ハイラムと私の二人はしばらく三人と話をして、三人の悪い方針を変えさせるために一生けんめい説得しましたが、三人から得た答えは「だとしても、われわれはもう地所を買ってしまったんだ。いまいましい、できるなら勝手にとれ」ということばだけでした。

ハイラムはそれからすぐに旧知の仲であるダクター・ロビンソンのところへ行つてこの悲しい話を述べました。ハイラムから話を聞くと、この老紳士は机の前に腰をかけて、私たち家族の性格について——私たちが家を自分のものにするために勤勉忠実に努力を重ねたことを、商業上の取引きについても私たちの心に確信を生ずるよう考えた多くのほめことばと共に、かなり長い手紙を書きました。そしてこの書いたものを自分の手に持ったまま、ずつとひとわり村の中をあるくと、一時間のうちに六十人の人に署名してもらいました。それからこれをハイラムにわたして、カンナイガに居る土地の管理人のところへ持つて行かせました。

この手紙を読んで管理人はひじょうに憤慨しました。そしてハイラムに、あの男たちが、スミス氏とその息子のジョセフは姿をくらました。またハイラムは砂糖畑の砂糖きびを全部切り倒し、横木をどこかへ引いて行った燃やしてしまふあらゆる害を農場に与えたと言った、と話しました。またそれで、このことばが本当だと思つた

ので、その農場を売りはらう気になり、金を受けとって権利書を書いたのだと言いました。

ハイラムは、父親とジョセフが旅に出た事情を管理人に話し、その上たぶん二人はなにか用事のために帰りがおそくなっているのではないかと申しました。これを聞くと管理人は、ハイラムに言いつけて私の夫へあてたくさんの手紙を書かせ、これを送って私の夫が旅行の途中とまった宿屋に置かせました。それはたぶんその中の一本でも夫の目にとまったなら、足を早めて戻ってくるためでありました。次に管理人は、さきに問題の農場の権利書を与えた人たちに一人の使いをやりました。これはその人たちと妥協をする考えでやったことですが、三人ともその件については何をすることもことわりしました。そこで管理人は再び使いを三人に送り、もしもすぐに来なければ令状を請求して彼らを連れて来させると言いました。三人はこのことばには心を留めてすぐさま管理人のところへ出てきました。

そこで管理人は、三人の者が今とっているやり方が不面目なまな無作法なやり方であることを悟らせようと努め、このようなことをするのをやめて、もう一度スミス氏に土地を返すように一生けんめい説得しました。

しばらくの間三人の者は、あざけり笑うように、ほぼ次のように言うほかほとんど口をききませんでした。

「われらは土地を手に入れてしまったんですよ、はい。それから権利書を持つてるんですよ。だからスミスに勝手にとらしたらどうです。スミスはどうでもいいんだ。あれは金版、金のバイブルを持つてますよ。金持ちなんだ、何を欲しがらんか」。それでどう

とう、もしハイラムが土曜日の晩の十時までに金壹千ドルの金を調達することができたなら土地の権利書をわたすことに同意しました。

その時はもう木曜日のひるごろでハイラムはカンダイガに居たのでした。そこは家から九マイルのところにあつて、ハイラムは必要な金額を調達するための最初の行動を起す前に家へ帰つて来て居なければなりませんでした。ハイラムは重い心を抱いて家へ帰つて来ました。そして、家へ帰つてみると、彼よりすこし前に家へ着いた父親がそこに居ました。父親はさいわいにも、家から五十マイル以内のところまでハイラムの書いた手紙の一つを見つけたのでありました。

そのあくる日、夫のたのみによって、私はある年とつたクエーカー教徒に会いに行きました。この人は私たちが農場の仕事を始めた時から親しくつき合つて居て、いつも私たちの農場がきちんと整頓してあるのをほめてくれるようであつた老紳士でありました。わたくしたちは、この老紳士が友人であつてしかも私たちに好意を示す気持があるのので、今畑の上にある作物による利益だけでも私たちの手に入るように、その土地を買つてくれる力も好意もあつて欲しいと思ひました。しかし私たちは失望しました。それはこの人を買う気持がなかつたというのではなくて、買う金がなかつたからであります。この人は、私たちの行くすぐ前に、すぐ近くに住んでいる友だちのもつている土地を買戻すために、手離すことのできる金をみな土地の管理人に払つてしまつたところでした。もしも私がつう三十分早くその人の家に着いていたら。その人は千五百ドルのお金を持つていたでしょうに。

私がこの人に、それまでに起ったことをもう一度話して聞かせますと、私たちのために大へんなやみやみ、私たちの窮乏を救う力のないことをひじょうに残念がりました。しかしそのあとで「今わたしはお金を持っていないけれども、あなたがたのために何かやってみましよう。そこであなたはご主人に、わたしができるだけ早くお目にかかって見こみを知らせたいと言っていると言っていて下さい」と言いました。

そのときはほとんど夜でした。私はその地方が始めてで、私の行く先には深い森がありました。私がそれからあるかなくはならぬ道のりは十マイルありました。しかも独りで。それでも私は、私が出会った失望を夫に知らせるためにその道をいそぎました。

その老紳士は、私が出かけるとすぐに、私たちを助けることができる人を探し始め、そこから四マイルへだたつたところに住んでいるダーフィー氏のことを聞くと、その晩に私たちのところへ来て、この人が私たちのために工夫のできることを行って見なさいと指図をしました。

そのことばによって、私の夫はすぐさまダーフィー氏の宅へ出かけまして夜のあける前にその家へ着きました。ダーフィー氏はそれから、郡の治安官をしているダーフィー氏の息子の一人に会わせるために私の夫をさらに三マイルやり、私の夫に告げて、ダーフィー氏ができるだけ早くその息子に会いたがっていると見えと言いました。ダーフィー氏の息子は、父親の呼び声に従って出て来ました。そして息子がダーフィー氏の家に着くとすぐに三人は一しょに農場を見に出かけて十時ごろに農場に着きました。三人はそこにしばらく止まっています、それから土地の管理人と私たちの土地の権利書を

にぎっている悪漢たちに会うために馬に乗って行きました。

私がおその日に受けた心配は思うように書きあらわすことができせん。今や私は、それまでに経験したことのないわしいような愛情を抱いて、四方からほほえんでいる私たちの勤労の結果をながめていました。そして、こんなに早くすべてがなくなってしまうことについては、それほど痛切に感じませんでした。と言うのは、私はその時私たちがまだ年をとっていないで、いくらかの努力をすれば私たちの暮しむきを改善することもできると本当に考えていたからであります。そのうえ、私は昔からの貧乏をすこしも不便と思っていませんでした。

私の夫とダーフィー氏親子の三人がカナンダイガに着いたのは夜の九時三十分でありました。土地の管理人がすぐさまスタッドト氏とその友人をよびにやりますと三人はただちにやってきました。しかし、事をむつかしくするためにもう十時すぎだと主張しましたが、とうてい主張しきれなくなりとうとう郡治安官のダーフィー氏に権利書をわたしました。こうして農場はダーフィー氏の手に移つたのであります。

前に申しあげましたが、私の夫がナイト氏とストール氏に会うために出かけましたその時に、息子のジョセフも一しょにまいりました。夫が帰ってきましたとき、息子のジョセフも夫と一しょに帰ってきました。農場の争いが係争問題になる時まで家に居りました。それから前に申したと同じ用向きでペンシルベニヤへ出かけました。翌年の一月に妻をつれて健康で機嫌よく帰ってまいりました。

註。これによって、スミス家の農場は陰謀と詐欺により千八百二十六年に家族の手から取られたことになる。ジョセフ・スミス

は千八百二十七年一月に結婚しているからである。

ジョセフが戻ってからまもなく、私の夫はたまたま彼を用事でマ
ンチェスターへやりました。彼はその日の朝早く家を出ましたの
で、私たちはおそくとも夕方の六時までには戻ってくると思ってい
ましたが、六時になっても戻ってまいりませんでした。私たちはジ
ョセフが居ないときはいつでもジョセフの身の上について妙に気が
かりでなりませんでした。というのは、何かがいつも起って彼の命
を危うくするかのよう思えたからであります。彼はその日に夜が
ふけるまで帰ってまいりませんでした。夜おそく帰ってきますと、
彼はどっかり椅子に腰をおろして、いかにも疲れきった様子であり
ました。私の夫は彼の様子を目にとめませんでしたので、すぐさま
どなりました。「ジョセフ、なぜこんなにおそくなつたんだ。何か
あったんか。この三時間というもの、家の者はみんなお前のため
心配していたんだぞ」。ジョセフがこれに答えませんでしたから、
夫はなおもぎきただしましたので、とうとう私が申しました。「お
父さんや、ちょっと休ませておやりなさいよ。いまあの子をかまわ
ないで。家へ無事に帰ってきてとても疲れているんじゃないか。どうぞ
ちょっと待ってちょうだい」。

実を申し上げますと、私はジョセフについて少しばかり注意深くなる
ようになっていました。その時の様子とおなじことが何べんも前に
ありましたので、その原因を容易にとりちがえるはずがありません
でしたからです。

ほどなくジョセフはにっこり笑うとおだやおな口調で言いました
「今度は今までないほど痛いこらしめを受けましたよ」。

これを聞いた私の夫は、ジョセフを痛い目にあわせたのはだれか

近所の者であると思つて、ひじょうに立腹して「だれがお前にとが
め立てしなくてはならぬのか。余計なことだ」と言いました。

「まあ、まあ、お父さん。それは主の使者だったんですよ。私が
あの金版のあるクモラの丘のところを通りすぎていますと、天の使
者が姿をあらわして、私に、お前はこれまで充分主のみわざに従事
していなかった。あの記録を取り出す時がすでに来ている。お前は
大いに活動して、神が命じたもうたことをし始めなければならない
と言いました。しかしお父さん、私が今日受けたこらしめについて
はちっとも心配におよびません。今私は、私の行かなければならぬ
道がわかりましたからです。それでですから万事都合よく行くにちが
いありません」とジョセフが言いました。

この日ジョセフが天の使者に会つたとき、天の使者はジョセフに
むかつて、次の九月二十二日にもう一度記録を手に入れる努力をし
て見よと言いましたが、ジョセフはそのときこれを私たちに一言も
言いませんでした。

扶助協会 レッスン

「神学」—教義と聖約

(千九百六十三年十一月第一週)
第五十課、汝らは主の代理人な

り。(「教義と聖約」六十四〇
十五—四十三)

目的—千八百三十一年、聖徒たちが「主の代理人」であつた時の道を提示し、この言葉が私たちに如何なる意味を持つかを暗示する。

ほしがき

このまえのレッスンからわたくしたちは、「教義と聖約」の第六十四章は、当時ミズーリ州ジャクソン郡へむかつて出発する用意をしていたある長老たちが、長老たち自身と忠実な者たちの受ける光榮とについて主なる神さまの目的について主なる神さまの目的を知らしめた。

これらの長老のうち、ある人々が赦しの精神に欠けていましたから、主なる神さまは「神の王国」の民であつて悔い改めをしようと

しない者は神のいましめに従がない罪によつて「神の王国」の民である権利を失なうにちがいない、という警告と共に神の「赦しの律法」をまた新しく啓示なきしました。

エズラ・ブースと

アイザック・モーレー

今述べた原則を教えるのを目的とした教訓を与えるかのように、第六十四章にはつづいて二人の人、エズラ・ブースとアイザック・モーレーのことが言つてあります。そしてエズラ・ブースのことは「わが僕なりし」と言つてありますが、一方アイザック・モーレーは「われわが僕アイザック・モーレーを赦しぬ」と言つてありますから、この人は教会の会員である資格を失なつてはいませんでしたが、二人とも「律法も誠命も守らざりし故なり……彼らは悪しからざりしものを悪しとしてがめたるなり」(「教義と聖約」六十四〇十五—十六)と聖典に言つてあり

ます。この啓示の中にあらわれている赦しについての勧告を見ればはつきりわかるように、モーレー兄弟はその罪を悔い改めたのに、一方エズラ・ブースは「神の王国」を去ると決心を固めていました。

この啓示が下つたときにアイザック・モーレーは教会の管理監督であつたエンドワード・パートリッジの副監督であつて、パートリッジ監督が亡くなつた千八百四十年まで同じ職に居りました。

この二人がどれほど深く福音の教えに改宗していたかということと、またこの二人の性格がどのような性格であつたかということ、主なる神さまが一人を受け入れ、悔い改めていないほかの一人を受け入れておいでにならないことにははつきりあらわれています。アイザック・モーレーは「汝らは主の代理人なれば、主の用向をもてる者なり」ということの趣意を受け入れていました。モーレー兄弟は千八百三十年に福音を受け入れて以来、ずっとその生活をシオンの大事業をはかどらせるためにささげてきました。私たちは第六十四章の二十節に言つてあるように、モーレー兄弟が主の誠命に従つて自分の農場を売り払つたこと

を信ずることができました。アイザック・モーレー兄弟は、教会の中にあるいろいろな役目を勤めているうち、シオンを建てるために自分の財産を全部喜んで奉獻した、神の僕に忠順であつた人として述べてあります。(活動している福音「百三十一—百十八頁参照」)

これと反対に、エズラ・ブースは教会の歴史では不名誉な生涯を送つた人になっています。この人は時々、奇跡を見て改宗した者の例にあげられていました。フアラー・ジョンソンの妻は病氣のため二年の間その手をあげる事ができませんでした。当時メソジスト派の牧師であつたエズラ・ブースは、その家族の友人として、予言者ジョセフ・スミスと長老たちが彼女のために灌油の儀式を執り行なつてたために彼女の腕を使えるようにしたときその場に居りました。このいやしを見てからまもなくブースはバプテスマを受けました。ブースが「財布も旅のふくろもなしに」福音を伝えなくてはならなかつたとき、彼は「かせいで」生活をするにはもっとよい方法がいくらもあると思つた、とジョージ・A・スミス長老は言いました。予言者の報告によると、

「信仰とけんそん」と忍耐と艱難とを経てはじめて祝福に達すること、また神は人を高く上げる前に低く下げたもうことをブリスが知ったとき、また（彼自身の場合、神にそうしてもらいたいと彼が言っていたように）「救い主が彼に権能を与えて人々をうちこらしめ、そして彼らに信じさせる」かわりに、彼自身おそろく誰かを救うために、すべのそらく誰かを救うために、すべての人にとつてすべてにならなくてはならない、しかもまたイエスの時代にあつたように全くの勤勉と海、陸における危難によつてそうならなくてはならないことを知ったときに、彼は「失望した」（教会記録歴史「第一巻、二一六頁参照」）。

このような状態のもとにあつて、ブリスは背教をしました。ほかの背教者もそうであるように、教会に不利な証拠として、たぐさんのいつわりの文書をおおやけにして自分が正しいと言おうとしました。ブリスの背教は暴徒の組織に力を借して、暴徒たちはジョセフ・スマイスにタールを塗つて鳥の羽をつけ、ジョセフ・スマイスが養子にした子供の一人を死に至らしめました（「教会記録歴史」第一巻、二六四—二六五頁参照）。

エドワード・パートリッジはこのとき「不信仰にして心の暗さため」罪を得て居りましたが、この場合の「不信仰」はマルコによる福音書九〇二十四にあるような「弱い信仰」のことであつて、おそらく「心の暗さため」であつたと思われまゝ（「教義と聖約の註解」三三九頁参照）。また、ちがその生活でも忠実勤勉な會員は、彼の生活を正して主なる神が慈悲深く罪をゆるしたもうことを知るのであります（「教義と聖約」六四〇—六四七参照）。

持されるために、その地で自分の所有する物を固くもつて居るようにならねばならぬ（「教義と聖約」六四〇—六四一参照）。この聖句はその後起つたいろいろな出来事によつて文字通り成就しました。六十四〇—二十六でニューエル・K・ホイットニーとシドニー・ギルバートとは、カートランドのために二人の店と二人の財産とを売り払わないで持っているように勧告されています。五年の後に「心をうちあげ」たすなおな者たちがジョンの地に集るはずでありました（「教義と聖約」六四〇—六四二参照）。

はカートランドの神殿の中でありました（「教義と聖約」第百十章参照）。千八百三十六年四月の三日に起つたいろいろな出来事は、地の四隅よりするイスラエル集合に関する神権の鍵の回復によつて世界の出来事にとつて一つの転機となつて、末日聖徒は俗世から出て「主の用向をもてある者」の生活に入つて居るものであります。このイスラエル集合の中には昔から聖書とモルモン経に予言がしてあるユダヤ人の故国復帰も入つて居るのであります（エレミヤ書三〇三、ニルファイ第二書三三〇—三七八参照）。そして、わが教会が全世界にわたつて宣教師活動の運動を活潑に始めたのは、モーセがこれらの鍵を回復してからであります。よろずのものものの回復の鍵と共にアブラハムの福音がもたらされたこと（「教義と聖約」百十〇—百一〇参照）、最後に、死者と生者とを結ぶ「結び固が固め」の権能の鍵が回復されたことによつて、人類の救ひのために大きな活動が始まりました（「教義と聖約」百十〇—百一十六参照）。その時、主イエス・キリストは神殿をおとすれて主の宮居として受け入れ、

この期間中に二つの州の地方で教会がたてられました。その一つはオハイオ州カートランドの教会でこれは教会の本部になりました。ほかに、西部ミズーリはシオンと命名され、土地と神殿の敷地が献納されると共に成長する教会の中でその役割を演じ始めました。ここにおいて、多くの聖徒たちはミズーリに集るうながしを感じました。そしてシドニー・ギルバートはシオンで商売を開くことを命じられました（「教義と聖約」六四〇—六四八参照）。一方、フレデリック・G・ウィリアムスはカートランドで相かわらずとりでが維

これから五年間、カートランドのために主なる神は何を貯えておいてになりましたか。千八百三十六年四月三日、カートランドの神殿は当時世界における最も重要な殿堂になりました。貧乏と迫害の最中に行なわれた聖徒たちの労働によつて、この聖なる家は主の御名のために建てられた、民をおとす名その建物の中に主の民をおとすれたもうためである、と主は仰せになりました。天から来た人物によつて神権の鍵がこれを最後にことごとくジョセフ・スマイスとオリヴァー・カウドリとに与えられたの

主イエス・キリストは神殿をおとすれて主の宮居として受け入れ、

それと共にこの宮居は主の民のために授けられる祝福の始めとなるにちがいないという御言葉をたまりました。「教義と聖約」百一十参照)。「これらが出来事か教会の将来と世界とに与えた衝撃を人が考えてみると、なぜ何人かの聖徒がカートランドにおいて毎日の活動をつげよと命ぜられたというわけが解ります。彼らの働らきはまた聖徒らを助けて「シオン」の地においてゆずりを得んため」に力を借すはずでありました。「教義と聖約」六十四〇三十参照)。

借金についての勧告

第六十四章に言っている教会員(およびそのほかの教会員たち)は、彼らの敵から金を借りてはいけなさと勧告されていました。「教義と聖約」六十四〇二十七・二十八参照)。「もしも教会員が敵意のある人々から金を借りたなら、それがその地方におけるシオンの大事業に失敗をもたらすかも知れなかったからであります。物質上の財産を保持して借金をするなどの指図は、主なる神さまはいともこの世の事について主の民に勧告を与えて守って下さることを末日聖徒たちに思い起させます。個人

個人について、これまでわが教会の幹部は借金をしてはいけなさと主の民に勧告をして居ります。マリナー・W・メリル長老は教会の総大会で次のように申しました。「ある財政が私に借金を逃れる鍵をくれました。それはごく簡単なことです。すぐさま借金をすることをやめよ。借金をきれいに払うまでは別の一ドルを借りな」と、「大会報告」、千八百九十九年四月、十五頁参照)。

「汝らに基礎を置きつつあり」

人が「この神権時代」の始まりを研究しているとき、教会員が次の啓示のことばの意味を完全に本当であると認めているのかしらと思ふことが時々あります。

「見よ、主われ汝らに述べ。されば、わが言は確かにして彼らのゆずりを受くるは過ちなし。されどすべてのことは、その時節至りて成らざるべからず。この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ、小なる事より偉大なる事起る」(「教義と聖約」六十四〇三十一―三十三)。

ウィルフォード・ウッドラフ長老は千八百三十三年に始めて予言者と会いました。長老がある集り

に出ましたところ多くの兄弟たちが福音の回復されたことをあかくして居ました。ウッドラフ長老は千八百三十八年教会の総大会で次のように申しました。

「彼らが終ったときに予言者が言った。：『私は今晚諸君のあかしから大いに教えられた知らされるところがあつたが、私は主の御前で諸君に対し、諸君はこの王国である教会の行くべきにこの王の母のひざに抱かれて居る赤ん坊よりも知っていないと言ふ。』

諸君は教会の行くべきがわかっていないのだ』これを聞いて私は多少おどろいた。すると予言者は言った。『諸君が今晚のあたりに見るところの神権者は教えるに足らないほどわずかである。しかしながら、この教会は北と南のアメリカに充滿するにちがいない。いや全世界に満ち充ちるにちがいないのだ』それからいろいろほかのことを言ったが、その中で次のように言った。「わが教会はロッキーマン山中に充ち満ちるにちがいない。ロッキーマン山中に集る聖徒がい千と数えられる日がくるにちがいない。そして彼らはそこでレーマン人の間に福音が確立される扉を開き、レーマン人たちは福音と彼

らのエンダウメントと神の祝福とを受けけるにちがいない。末日聖徒たちはロッキーマン山へ行き、そこでも建てるにちがいない。彼らはそこで子孫をもうけ、ロッキーマン山に住むところの末日聖徒は『人の子』の再び来りたもう日まで、肉体でそこにしっかりと立つにちがいない。そして、「人の子」は彼らがロッキーマン山中に居るうちに彼らのところへ来りたもうにちがいない」と。

私が見たこれらのことを口に出して言うのは、私は自分の目で今日これらの事を見ている、またこの予言が事実となつてあらわれたこと、過去五十年にわたる私の生涯において見てきたことと神と天使と人々の前にあかしをしたこととである。私はあの人、すなわち予言者の声を聞くまでロッキーマン山脈を見ようとは思つていなかったが、今までロッキーマン山脈をこの目で親しく見、今も見ているのである」(「大会報告」千八百九十八年「五十七頁」)。

偉大なる一つの事業の基礎を置きつつあつたのは千八百三十一年の兄弟たちばかりでなくて、千八百三十三年と千八百三十六年およ

現在の千九百六十三年さえ含む「この神権時代」における全神権者も含むのであります。「主の用向」を受け入れた一人一人の末日聖徒は、ついに全地を満すはずの一大事業の基礎を置きつつあるのであります。私たちの参加する全部の教会プログラム、私たちの捧げるあらゆる貢献、喜んでする心と従順な精神で行なうあらゆる働らきは、永遠の生命を結局勝ちとるために建設をたずけるよう新しい時代の人々に力を借すとき豊かな酬いを見出すにちがいありません。私たち末日聖徒は一人のこらず、小さな事から大きな事が起ることにほげまされるのを感じるべきではないでしょうか。私たちの貢献は小さく見えるかも知れませんが、小さいことがつもりつもって将来をきつぎ上げるのであります。

「わが民の仕分の一」

私たちはすでに、「この神権時代」の始めのころに、聖徒たちの中にあら貧しい人々のため全財産献納の律法が主なる神によつてさだめられたことを学びました（千九百六十年扶助協会誌十月号第二十八課参照）。この律法はオハイオ州トムソンに於て実行され、聖

徒らは後にミズーリ州で実行するよう命令を受けました。聖徒たちがこの律法を実行するに当つて明らかに失敗をするということは第六十四章で予表されています。

「仕分の一」の律法は、民にもつと大きな律法である全財産献納の律法を実行されるようにする教師であると言われています。フランシス・M・ライマン長老は教会の総大会で次のように指摘されています。

「この仕分の一の律法を忠実によく守る能力がないにちがいない。仕分の一の律法は全財産奉獻の律法へ行く踏み石であるが、神の子らの大多数は、おそらくより高度の律法に達する能力がないであらうから、この仕分の一の律法は永久につづく一つの律法である」（大会報告、千八百九十九年三十四頁参照）。

主なる神が、その民に「仕分の一」の律法を守れと仰せになったのは千八百三十八年の七月でありました。それにもかかわらず、千八百三十一年には、この律法が採用されたときに守らない人々の上に来るあるさばきのこと聖徒たちに知らせてあります。「仕分の一」はまた、第六十四章二十三節

に示唆してある「ぎせい」の意見をふくんで居ります。

「仕分の一」の律法とこの律法に従うことについてジョセフ・F・スミス大管長は次のように言われました。

「服従はぎせいにきまり、聞いて行なうことは肥えた雄羊よりもまさる、と。主なる神がその民に要求したまうのは彼らの物質よりもむしろ誠心と喜んで事に従う精神である。神はわれわれの服従が必要ではない。しかしわれわれは服従することが必要である。なぜなら、われわれは服従してこそ良い酬いを受けるからである。それであるから、わたしは「仕分の一」を払うことについて主要なことは「仕分の一」の律法に従うことであつて、この律法に従うことによつてほかのそれよりも良いことがわれわれに来るにちがいないという結論に達する。

われわれは何十万という金を受けけるねうちがあるかも知れない。そしてわれわれの収入に対して誠に「仕分の一」を払うときには「仕分の一」は巨額に達するであらう。しかし、神の律法に従う

ことを通してわれわれに来る良い事は、われわれのもっている物質が貧しい人々にする善事よりも結局はるかに大きくなるにちがいない」（大会報告、千八百九十九年四月、六十九頁）。

「真心と喜びて事に従う精神」心は、聖典では感情の座と連合してあります。それでこの聖典にあてはめるときには、主なる神を熱烈に愛する者たちだけが祝福を得るといふ意味であると思えます。

「見よ、主は真心と喜びて事に従う精神とを求む。喜びて従順に従う者たちは、この末の世に於てシオンの地の善き物を食わん」（「教義と聖約」六十四〇三十四参照）。

主なる神が「神の王国」の働らきに全身全霊をささげることが要求されるには、千八百三十一年の聖徒も千九百六十三年の聖徒も何もかわりありません。

一生涯「主の用向を持つて」いる人々はシオンの地から切り離される謀叛人という罪の宣告を受けるきづかいはありません。なぜならば、シオンの地から切り離される者たちは、選ばれたエフライムの血統でなくて抜きすてられなくてはならぬ者たちであるからです。

〔教義と聖約〕六十四〇三十五—三十六参照。

「これらの聖句の前後関係に註釈をほどきしてジョージ・Q・カノン長老は次のように言われまし

た。「この教会の始まりから現在に至るまで神の僕たちの勧告に従順であった人々はいつもひじょうにめぐみを受けている。ブリガム・ヤング大管長は予言者ジョセフ・スミスの存命中、終始かわらず予言者の言うことに一から十まで従順であった。またジョセフ兄弟はヤング兄弟が厳密に従がわないうなことを一つも要求しなかつた。これとおなじ事が、ジョセフ兄弟の存命中、交わりを結んだほかの忠実な人々にも言えるのである。しかし服従をしないで謀叛をする人々は、主が仰せになった通り断ち切られた。オリヴァ・カウドリは、パプテスマのヨハネがジョセフ・スミスと彼の二人のところに来てアロンの神権を授けたときにジョセフ・スミスと一しよに居た。オリヴァ・カドリウはわが教会の第二番目の使徒であつてモルモン経の見証者であつた。主の天使が来て彼に金版を見せたのを彼はあかししている。しかし、オ

リヴァ・カウドリは予言者のことに従がわなかつたから、彼の地位に立つことはできなかつた。彼はジョセフにきわめて近く、きわめて主からめぐみを受けて居たので、予言者が彼に話した通り正確にする必要はなかつたと考えられるかも知れぬが、そうではない。キリストの教会には全員が守らなければならぬ一つの秩序がある。だれであつてもこれに従がわぬ者は主なる神の怒りから自分に招くにちがいない。これは全員が知らなくてはならない原則である（『ジュベニール・インストラクター』第十巻、一八七五年、二二—二頁参照）。

第六十四章三十四—三十六節に含まれた歴史的内容には予言の意味がある。千八百三十三年聖徒らがジャクソン郡から追放されたとき、聖徒たちは主なる神さまが前から与えておいでになつた律法に賛同して居りませんでした。それは、聖徒たちの不注意と怠慢とよこしまによることでありました。それでありますから、この聖徒たちは地から「抜きすてられ」て追い出されたのであります。

「にせの予言者はわかる」

第六十四章の三十七節から三十九節までの聖句にしろしてある原則、すなわちシオンの子らはシオンに関するあらゆることをきざくべしという原則は第五節と首尾一貫しています。それは、シオンの

民はあざむく者を見つける方法を知っているからです。にせの予言者は、主なる神さまがシオンの民の使うようにそなえて下さつた詐欺発見の鍵があるので、末日聖徒にすくわれます。第一に、にせ予言者の言うことも、前ににせの啓示は、第二十八章と四十三章に述べてある基準にてらしてうそか本当か判断することができま

す。それはすなわち、教会のために神から啓示を受ける権能を授かつている人は一代一人にかぎるといふ基準であります（千九百六十二年七月、扶助協会誌、第十八課参照）。第二に、にせの教師は第五十二章九・三六節に述べてある基準すなわち、イエス・キリストのまことの教会の古代ならびに現代の使徒と予言者たちの教えによつてうそか本当かを判断することができま

す（千九百六十一年十月扶助協会誌、第三十六課参照）。主なる神さまは、シオンに関するすべてのことは教会がきざく

とはつきりお言いになりましたから、ついに万国の民も教会がきざくにちがいありません。主の時節が来たときには、すべての人にきざが割り当てられます。

「汝らは主の用向を

もてる者なり」

初期の聖徒たちは、あなたがたは一大事業の基礎を置いているのであるから、まずたゆまず善い行をしなければいけないと言われましたように、またあなたがたの仕事は、結局世の人々がほめたたえるシオンをこの大陸に建てることであると言われました（『教義と聖約』二六四〇四十一—四十三を読むこと）。

また六十四章の中に出てくる兄弟たちに主なる神さまは、「汝らは主の代理人なれば主の用向を持つる者なり」とお言いになりました（六十四〇二十九）。私たちはみな主の代理人であつて、主の用向を持つている者であります。誓約により私たちは過去に置かれた基礎の上に忠誠な献身を通してきざき上げることが委任されました。この働らきは結局将来立派に栄えるシオンとなり、そこに主の光栄があるにちがいありません。しかしどのようになら私たちが

は「主の用向を持つ」ところまで進むことができますか。十二使徒評議員会のジョージ・ティーズデル長老は次の考えを提案しておられます。

「私たちは主によってあがなわれた者であります。私たちは結局キリストの貴い血によって聖別されている者たちであります。神を愛してその誠命を守る者たちは、神と主イエス・キリストを代表する者たちであります。彼らは互いに相愛し、そのわざによって知られます。彼らの信仰は彼らのわざにあらわれています」(大会報告千八百九十八年四月、五十二頁)。

一、カートランドにとりてを維持することに於て教会はどんな利益を受けましたか。

二、借金をするなという忠告がなぜ良い忠告であるかそのわけを話さない。

三、「汝らは偉大なる一つの事業の基礎を置きつつあり」ということばは、どのように私たちに於てはめて言うことができますか。

四、「自分の」を払うことは「私たちが主の用向を持つている」ということと、どのような関係

をもっていますか。

五、「主は真心と喜びて事に従う精神を求む」ということは「汝らは用向を持てる者なり」ということとどんな関係がありますか。

六、「私たちは主の用向を持ってゐる」という真理を、人はどのようにしてその生活に適用することができまますか。

「社会科学」

(千九百六十三年十一月の第四の集りて)

「神の律法と教会制度」

第九課「教会の組織、その目的と原則」

目的 教会の組織の神性なこと及びそれによつて教会々員に負わされる義務に就て強調する。

教会は回復されねばならなかった。

それらの王たちの世に天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びたことがなく、その主権は他の民にわたされず、かえつてこれらのもろもろの国を打ち破つて滅ぼすでしょう。そしてこの国は立つて永遠に至るので、(ダニエル書二〇四十四)

。国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる。

彼らの国は永遠の国であつて諸国の者はみな彼らに仕え、かつ従う。

(ダニエル書 七〇二十七)

。そは、わが時至らばわれ審判のため地上に來り、その時わが民は贖われてわれと共に地上を支配すべければなり。(教義と聖約 四十三〇二十九)

一、予言者は命ぜられた。

最初の示現に於て予言者ジョセフ・スミスは天の面前に於て、御子により、この時地上に存する如何なる教会も神の認め給うものでないことを告げられました。

。私が主に伺おうとした目的は、私が何れに加入すべきかを知るためにすべての教派の中で何れが正しいかを知ることであった。それで私はわれに返つて言葉が出せるようになるや否や、私の真上で光に包まれて立ちたもう御方にすべ、これらの教派の中で何れが正しいか、そして私は何れに加わべきかを伺つた。ところがその御答に「汝はその何れにも加わるべからず、彼らことごとく誤れるを

以てなり」と言いたもうた。(高価なる真珠 ジョセフ・スミスの著 二〇八十一頁)

二、求めよ。さらば与えられん。

予言者、ジョセフ・スミスの経験から私たちは啓示は彼が願つた結果、与えられたものであることを知りました。教会の組織、制度又は進歩發展上の問題で彼が解決出来ない場合、予言者はそれらを高き法廷に差出し、教会の進歩と人類の福祉の為に啓発されたのでありました。指導者たちがこのジョセフ・スミスに与えられた命を

理解し受入れるや否や、この方法は王国の回復を保証したのでありました。

最初の示現の後、幾年もの間、質問と答えは継続したのであります。天のお方は告げるお方でジョセフはそれによつて啓発され、教会の教義と組織の成熟をもたらしたのであります。

教会組織の権能賦与

第一課の教課で既に述べたようにジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリはバプテスマの問題に就ての指示を求め祈りました。その結果は神権の回復となつたのであります。教会が組織される前に神

権が回復されねばならなかったの
でありませう。一八三〇年の啓示を
通じて私たちは予言者が教会を組
織するように命ぜられた事を知ら
されたのであります。

この末の代に於けるキリスト
の教会の起りはこれなり。而して
時はわれらの主、われらの救い主
なるイエス・キリストが肉身を以
て、この世に來りたまひてより千
八百三十年にして第四の月すなわ
ち四月の六日、神意と神命により
て、わが国の国法に従い正式に組
織創立せられたり。すなわちこの
神命は、神に召されイエス・キリ
ストの使徒の聖職に按手任命せら
れて、当教会第一の長老となりた
るジョセフ・スミス（二代目）に
下りたるものなり。またこの神命
は神によりイエス・キリストの使
徒に召されて当教会第二の長老と
なり、しかもジョセフにより、聖
職に按手任命せられたるオリヴァ
・カウドリにも下りたり。（教義
と聖約二〇——一三）

に彼は啓示により教会の名称を確
認したのであります。わが教会
は末の世に於て須らく末日聖徒イ
エス・キリスト教会と称えらるべ
し。（教義と聖約 百十五〇四
）
教会の歴史解説第一巻三九二頁參
照）

神権の回復

この神権時代の最初の二人の使
徒「ジョセフ・スミスとオリヴァ
・カウドリは、一八二九年ペテロ
・ヤコブ及びヨハネによつて、そ
うに聖任されました。（教義と
聖約十八〇九、二二〇二三、二
十七〇十二參照）同年（一八二九
年）の六月に最初の十二使徒會を
選ぶ権能を与えられたのでありま
す。（教義と聖約 十八〇二十六—
二十七）

オリヴァ・カウドリとデビッド
・ホイットマーは「十二人」を尋
ねるように任命されたのでありま
す（教義と聖約十八〇三十七）

この神権時代の始めに教会は第
一及び第二の長老を以て組織され
ました。組織されたその日に、そ
の他の者が神権のいろいろなる職に
聖任されたのであります。

一八三三年に大管長會が設けら
れ、一八三五年に十二使徒が選ば
れました。その時より今日に至る

迄、継続する啓示の根本原則の下
に教会制度の機構は、ほうちよう
する會員及びこの地上に神の王国
を建てる為の必要に応じて發展し
続けて来たのであります。

教会組織の必要

何故教会組織が必要なのか？
或時このような質問がなされまし
た。ジョン・A・ウィット博士は
彼の著書、合理的な神学の第四版
八十九頁に言っています。

同様の知恵と信仰と希望と実
生活を営む人たちの社会、教会は
神がそれを通じて彼の子供たちに
働きかけその意志を伝える代行機
関であります。更に神の為に行動
する権能はこの地上に於ては個々
に個人の上でなく或一つの組織の
上に置かれるのであります。

私たちは現代の啓示で次の聖句
を覚えてみます。

見よ、わが家は秩序の家にし
て混乱の家にあらずと主なる神言
う。主また言うわが名によりて為
されざる捧物をわれいかで受くべ
きか。または、わが命ぜざりしも
のを汝らの手より受け入るること
をせんや。主は言う。正にわれと
わが父が創世の前より汝らに定め
たる律法によらずして汝らに命ず
ることを為さんや……？（教義と

聖約百三十二〇八一—十一）

教会の使命は平和を設定し進歩
を保証し、人類の福祉と完成へ向
つて、神権を持つてゐる人の行動
を調整することにあります。

教会制度の組織と機能を通じて

救いの計画は完成されるのであり
ます。昨年の社会科学の教課で神
の子たちの完成の為の注告、導き
励ましとしての神の律法を強調し
ましたが、そのようにして救いの
計画は完成されるのであります。
計画は神の律法に従うことによつ
て、昇栄へと導かれるのでありま
す。教会は神権が行爲となつて活
動するもので神権は神の名によつ
て行動する権能であることは既に
指摘した通りであります。それで
あるから教会は人と神が交通する
手段となるのであります。

神の王国

昔と現代のどちらの聖文にも明
らかに教会と王国の概念に相互に
関連した意味があります。この二
つの用語は共にこの地上に於ける
キリスト自らの統治を参照して居
ります（信仰箇条第十條）これが
王国を必要とするのであります。
救主は教会の回復に責任があり彼
が訪れる時に王国がよく準備され
てあるように神権の指導力の内に

完全な権威と能力を以て教会の回復の責に任じて居られるのであります。旧約聖書は栄光の王が大いなる権威と権能の内に來るであろうことを伝えて居ります。ユダヤ人たちはこれを地上に於ける彼らの國家を建設するであろう軍事力として期待していたのでした。キリストがこの地上に伝道した時、彼の再臨の時に就て弟子たちに知らせました。

そしてこの御國の福音はすべての民に対して、あかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そして最後か來るのである(マタイ伝二十四〇十四)。

今日教会及び王國の概念は、イエス・キリストの弟子を参照することがより一般的な用い方となつて居ります。更に王國の概念の特別な意味と用法は末日にキリストが治めるであろう實際の王國を指しているのではありません。この意味で教会の概念は王國の本質的な部分と見なされて居ります。

キリストはその権能を人に委讓して、この地上にキリストの王國を建てるように委任しました。時が來れば彼は來て自ら治めるのであります。予言者ジョセフは私だちに念をおして居ります。

主が主御自身の時が來た時に世の中を整えて、宇宙の頭として立ち自らの手で治めることが世の始めからのエホバの計画であり、今日に於ても彼の目的であります。それがなされた時、義の内に裁きがなされ無政府状態や混乱は亡ぼされて、民はこれ以上戦を學ばなくなるのであります。

(教会史講和 六三章)

予言者は更に統けて、神の政府の目的は、人類家族の内に平和と幸福を促進することであると述べて居ります。(同上)

地上に住むすべての人が至高者の治める完全な統治の便益を受けますが、神権を光榮とする者のみが王國の政府の機能をつとめるのであります。

教会に於ける神政又は民主主義の概念がこの地上に於ける神の王國の土台となつて居る末日聖徒イエス・キリスト教会の政府は神性政体であります。このことは教会の運営は永遠の父なる神によつてなされることを意味して居ります。命令は上から來ます。けれども神政には多くの民主主義的表現を備えて居ります。教会のいろいろな役及びお召しには、その個々の任務遂行上の注告として又相談

する為、広く規定が設けられてあります。討議は教会制度内での模範的な手続きであり又各家庭と接觸することは教会内のすべての役員に与えられた指令であります。討議及び會員たちとの接觸は、聖靈を通じて神の決定によつて刺戟されたものであります。民主主義的手続きである世論の成長に理想的な状態を備えるものであります。

教義と聖約二十章の六十五節に私たちは次の聖句を読みます。

正式に組織せられたるわが教会支部のある所にありては何人といえどもその教会支部の支持の挙手によらずしてはわが教会内のいかなる職にも按手聖任さるる能わ

ず。これは教会の運営に當つて非常に大切な要素であります。如何なる人でも、役に支持される人は會員全体の投票検査を受けねばなりません。このような投票検査は義を以てなされ、嫉妬、差別待遇又は個人的敵意などの要素なく行われねばなりません。集會に於てすべての會員は如何なる役に対しても自由に支持又は反対の挙手をする事が出来るのであります。

神政は完成を要求する

會の會員及び指導者が福音の原則に生活している時、そうして神

の導きを受けることが出来、神の教会は地上に於ける彼の王國となるのであります。神政の権能は神の聖徒たちが彼らの完全な可能性を自覺する為に義しい道を進めるように靈感と啓示を備えるものであります。(教義と聖約百二十〇三十四—三十七)

個人の重要性

そこで教会の目的は人類家族を會員となり神の王國に参加するように準備することでありませう。それは完全な個人の進歩の為に機會と方向を備えます。真の目的は個人の完成であります。

神様の主な関心は個人の完成にあると云うことの声明を支持する多くの証拠があります。最初の場所、私たちは英知として神と共に永遠に実在したのであります。個性の神性なことは永遠の父なる神が靈的に親である事実によつて支持されます。そこで一人一人が神様にとつて重要な主であります。このことは、創造主によりつて、すべての彼の子供たちを、彼の面前に戻すよう努力が続けられて居ることをはっきりさせて居ります。予言者、ジョセフは私たちに告げています。人が持つて居るところの心又は英知は、神御

自身と同等（同じく永遠である）でありませう（教会史講話、六卷三百十頁）神は靈の体を用意し、このようにして、すべての人々は神の子供となり靈的な兄弟姉妹となつたのであります。地上の両親は神の靈の子供たちをこの世にもたらし當つて神の協力者となつたのであります。

悔改めと呼びかけ、何時でも神の教会がこの地上にある時は人に人生の目的、神との関係及び彼自身の可能性を通知することが、その義務でありました。教会は神の律法を通じて回復され一歩一歩と人間の神性な遺産の完全な自覚の達成に向つていたのであります。

私たちは聖文の中で（ヨハネ伝三〇六―一七）神はそのひとり子を賜つたほどに、この世を愛して下さつた犠牲の結果彼を信する者はすべて永遠の生命を持つことが出来るのであります。イエスの使命は人の子を非難する為ではなく人の子に救いをもたらすことのであります。

すべての予言者への命令は、人々に如何にして殆どこの生涯からもたらされる経験を獲得するかを教えることでありました。人々は悔改めとバプテスマは本質的で神

の知恵を認めることは永遠の進歩と完成への第一歩であると教えられて来たのであります。

主は私だちに次のように思い出させて居ります。汝ら、人の値は神の前に大いなることを憶えよ。（教義と聖約一八〇―十）

人を人生の真実の道を受入れるように導くことは神の王国に悔改めた人と共に大きな喜びを得ることを意味して居ります。

国内及び外国に於て人々にこの生涯に在つては昇栄を得る模範的な生活を受け入れるように教えることが教会会員の永続する任務であります。

末日聖徒の家族の子供たちも又福音を教えられべき彼らを教える責任は正に彼らの両親の上に置かれていたのであります。

（教義と聖約六八〇―二五―二十八参照）

母親は、よ一層、子供に近く接するので屢々親としての共同責任の大きな部分を果すのであります。けれども若しも彼女と彼女の夫も共に神権を理解し導ふならば彼らは共にその子供たちに、主の前に正しく歩むことを教える計画をするでしよう。

「末日聖徒の家庭」

（一）何がジョセフ・スミスを刺戟し、主に祈り求めさせたのでしようか、宗教的な性質、靈感、混乱？

（二）神から導きを受ける為に人間の側に於て何が必要でしようか？

（三）何時何処でイエス・キリストの教会を組織する権能が与えられたのでしようか？

（四）どうしてはつきりした教会組織が必要なのでしようか？

（五）人の兄弟愛の真の意味は何でしようか？

この意味はすべての教会の会員に通用されます。

参 考

教義と聖約、十八章、二十章、二十七章、四十三章、百十五章、百二十一章、百三十二章

高麗なる真珠、ジョセフ・スミスの著

スルメー・ジ・ジェームス・E・信仰簡条二〇章

ウィット・ジョン・A 神権と教会制度 十四章―十五章

「仕事会」

（千九百九十二年十一月の第二週）

「末日聖徒の家庭」

「考察その十」将来の計画」
目的 長期の家族の目的及び目標を検討して、これに対応する訓練計画を立てる

貴方はモルモン教は歴史に基いていと言ふ声明を聞いたことがありませうか？これが福音の計画を分析し始めた東南アジアから来た一人の歴史家の観察であります。何故それは世の始まる以前に迄遡るのでせうか、彼は言いました。私たちはこれにつけ加えることが出来ませう。はいそしてそれは永遠に続くのであります。そして私たち一人一人が、その長期計画の一部を占めているのであります。

この歴史的な見透しの内に私たちの地上に於ける経験を眺め、私たちのここに滞在する時間は比較的に少いが極めて大切であること意識するのはよいことでありませう。これは訓練と訓練の時であり、更に大きな責任に訓練する時であります。一つの見方は人の生涯を百年生されるものとしてこれを五つに分けて見ましよう。親としての責任をとるには最低限二十年を必要とします、次の二十年間は蓄積する為に必要であります。家族と財産を蓄積して家族の生活を増大するのであります。それからの

二十年間は子孫を世に出し一人立ち出来るように授ける為にありませぬ。それから回復の為の二十年間更に残された二十年間は再発見の為のものであります。若しも貴方が貴方の生涯を幾つかの単位に分け各単位に、はつきりした責任と任務を見るなら将来の為に計画しやすのであります。

或予告をなすことはよいことであります。切りと思慮深い黙想はこの時に大切であります。貴方の将来を憶せずに予告しなさい。私たちはここで殆どこの世の経験から得て他人に奉仕することを学ぶのであります。決して貴方自身こそよく覚えてしまわないようにそして靈感に調和させ貴方の計画を終局に達するものとし、そこで貴方のなすべきことは、それをもたらずべく働らくことであります。勿論貴方は融通性をきかし予見出来ない環境が起る時に慎み深く堪え忍ぶことを学ばねばなりません、そしてかしの木を育てるのに一世紀かかることを覚えるべきであります。風やストームや日照りが来るでしょう。けれども昔の格言にもありますように、よい樹は安易なところに成長しない風が強ければ樹も強くなる。

貴方の予告と生涯の目標を検討しなさい。両親として貴方の子供たち各人のバプテスマと按手礼を見つめて居りますか？補助組織及神権の訓練を計画していますか？貴方の計画は伝道の働らき及び神殿の結婚を含んで居りますか？貴方の教育目的は何ですか？貴方は友人に対し、どの様な特別な奉仕をしようとして居られますか？どのような通に生きる事によつてこの世を見つけた時よりも、向上して去らうと望んでいますか？

貴方はすべてこれからの計画を笑つて言うかも知れません。何故、若しも私がこれらすべてをなすなら私自身の死亡記事を書いていることになるじやないだらうか。と、まさにその通りであります。貴方は最初から終りを見て居るのです、そして貴方自身の死亡記事を貴方が今日なしているすべての事を又明日なす事を、そして幾多の歳月を経る迄、書きつづるのであります。

貴方は次のようにたずねるでしょう。

一人、一人が各々の計画を作るのですか、それとも又家族全体として計画を作るのですか？ どちら

らも必要であります。夫と妻は協力して各人が最大な発展をなすように又同時にお互のきつなを強化するように働らけます。子供たちは成長して参加できるようになつたら、計画を分担します。そして終局に於て各人が家族の計画を援助出来ると同時に彼自身の計画をも作成出来るのであります。

計画することを学び、計画通り実行することは発展の過程であり一チームとして協力して働らくことが必要であります、すべての人がこうすることを学ぶことが出来ます、婚約時代にその過程は、私のと云う言葉の代りに、私たちの、と云う言葉で考えることによつて始められ、だんだんと最初の二十年間の生活の方向とお互の分担が明確になって来るのであります。それからためされた、協力精神、の法則に従うことによつて進歩が促進されて行くのです。各家庭はそれぞれ自身の法則を設定することが出来ます。けれどもここに若干の提案があります。

(一)すべての事実が総合され、この行為又はあの行為の有利な点、不利な点が検討される迄、主な決定をなさないこと

(二)一度、決心がなされたら、その

目的の達成に一致協力すること

(三)もし間違いを生じた時はお互に責め合うことなく全体の状況を再評価して新しい方向が見定められねばならない

(四)各家族員の役割はその特別な関心、才能、又為さるべき或仕事の必要性に基いて決定される。

一歩一歩と計画の完遂目ざして訓練し、鍛錬して行くことが、やがて将来その計画を実現させる健全な道を備えるのであります。

註。一九六三年四月号 イムプルーヴメントエラ。価値ある行為は貴方を価値ある者とする。参照

(前頁より続き)

教義と聖約六十四章二十五節の聖文の中で私たちに与えられて居る注告は確かに一時的であると同時に永続的なものであります。今日は私たちの救いの日でありませぬ。若しも私たちが真に賢明であるなら私たちが主の聲に耳を傾け、彼を信じ、今日の内に彼の命じられた事を為すでしょう。

(千九百六十三年十一月第一週)

「教義と聖約」にもとづいて実践する真理メッセージ第五〇

「この故に汝らもしわれを信するならば『今日』と称えらるる中に汝らの働きをせよ」

(教義と聖約六十四〇二十五) 目的 救主を信する信仰は機械的な生産的行動を刺戟する事実を示感する。

実行の人とは事を成し遂げける人で、確乎不動の信念を持つ人であり、この人たちは彼らの為している事の重要さと必要性に対する不動の確信の故に決心し献身するのであります。教義と聖約六十四章二十五節に記載されてある通り主は言われました。この故に汝らもしわれを信するならば『今日』と称えらるる中に汝らの働きをせよ、彼は密切に關係している二つの大切な事実を強調しています。

第一は、純粋な信念は行為の始動者であります。強い信念がない限り実行を引きよさばしがりになり、為すべき時に為さばい。主は言われた。『わたしを信じる者は、またわたししているわざをするであらう。』(ヨハネ伝十四〇十二)

信念は重要な本質であります。若しも私たちが主の注告に従うならば、信するが故に、彼の命じたるべての事を行うのでありましょう。私たちは彼の注告と誠命に従うことによつて、この生涯の喜びと幸福を見出すのでありましょう。この聖句で二番目に強調している点は、若しも私たちが真に主を信じているならば私たちは不確定な将来でなく、今日働らく(実行する)でしやう。

行為に就て覚えておくべき最も大切なことは、それが着手される迄即ち何事か為される迄は、それは行為ではありませぬ。換言すれば引き延ばして只その行為を夢見ているだけでは行為ではありませぬ。

私たちが今月、為すべき事を明日に延ばせば明日があまりにも遅いことが問題となります。実際に於て明日は決して来ないのであります。生涯は今日の連続によつて形成されて居るのであります。誰かが言いました。賢者にとっては毎日が新しい生活であります。トーマス・カーライルはこの思想を次のように表現しました。私たちの主な仕事は、遠くの方に漠然と在る事を眺めることでなくて、はつき

りと手近かにある事を為す事である。今日働らくことの重要性はインデアンインディアンのの劇作家、カリダカリダによつて美しく表現されました。

今日を見なさい

それが人生であり人生そのものであるから

その短い行程に

貴方の存在のすべての真実と現実がある

昨日は夢に過ぎない。

明日は単なる幻影である

けれども今日、よく生活するならば、すべての昨日を幸福な夢とする。

そしてすべての明日は希望の幻想となる

だから今日をよく見つめなさい。

昔の詩篇の作者は同様に私たちに注告しています。これは主が設けられた日であつてわれらはこの日に喜び楽しむであらう。(詩篇百十八〇二十四)

このように述べて来たのは私たちの信念を強化して、それが行為の実際の始動者となるようにする為であります。私たちは実際に、私たちの主であり救主であるイエスに信仰を持っているでしやう

か? 自問して見ましよう。私たちは果して彼の教えに実際に信仰を持つてゐるでしやうか? 若しも持つてゐるならば私たちは彼が私たちに為すように告げたことを為すでしやう。

私たちは今日なすべき隣人への小さな親切を今日遂行しましやう。けれども私たちは屢々それを引き延ばしてゐるのです。今日私たちがなかなか実行の困難なこれらの小さな個人的な弱点及び習慣を克服しましやう。又他人によつて私たちに對してなされた親切及び思いやりに對し今日感謝の意を表しましやう。モルモン経の中でレーマン人の予言者、サムエルは人々が彼らの救いを取返しつかならぬ迄に引き延ばした為に陥つた苦境に就て告げて居ります。彼らにはあまりにもこの世の物質的な幸福を追求し、彼らの弱点と不完全を克服することを引延ばして毎日失敗してしまつたのでした。彼らは救主の教えに本質的な、これ等の親切な行為を遂行する事に失敗したのでした。サムエルは人々に彼らの試した日は過ぎ、彼らに引延した為に昇栄の機会は失われたと告げました。(ヒラマン書十三章)

(8頁に続く)

If there is to be a special function in M.I.A. advertise it.

Use members who have pretty good English to announce about M.I.A. and the activities and to invite the students to stay.

Remember too, that a personal invitation from you as the teacher or from other members after class will make the students feel more at ease in staying to M.I.A.

Also don't under-estimate the power of singing . . . demonstrate a little of the good old Mormon enthusiasm! Try rounds or M.I.A. songs, put original words to familiar tunes, not only to advertise M.I.A. but to put students at ease and to enjoy yourselves!



Guide could invite the tourist to come to a certain hotel or eating place, describing the accommodations, the foods being served, etc. Tell a little of the background of the founding of the hotel or the discovery of a certain food or the meaning behind one of the temples. The guide could be dressed in appropriate clothing and visual aids will make it more interesting.

Fourth Week

1. After reading and discussing words, phrases and the story in Japanese and English ask for the students' opinion as to what the mother must have said at the dinner table the night before; why the golden rule is important here; and why the mother and son shared "a bit of pride" in each other.

2. Busy Beaver Scramble Puzzle

(After reading the story rearrange the words to spell words that tell about the beaver)

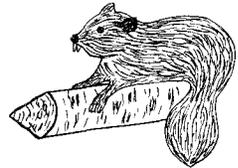
VEBEAR

ETHET

DADELR-ITAL

EWB-TEFE

WALCS



The beaver is a busy and useful animal.

He has a paddle-shaped tail and webbed feet for swimming. He has four sharp teeth for gnawing wood. He helps check soil erosion and reduces flood damage. He even makes fishing ponds. In general, he is a "do-good-er!"

(Answers: beaver, teeth, paddle-tail, web-feet, claws.)

3. Olympic Guide:

Continue in practical workshop as in previous weeks... answer questions that students may have in how to explain a certain thing or what is the right way to say something in English. Encourage them to write down correct sentences that may be useful to them. Olympic guide play-acting can be an enjoyable and educational experience so teachers—use your originality!

To the teacher:

Don't forget to really advertise M.I.A.... use your own originality as well as using ideas in previous issues of the Seito No Michi.

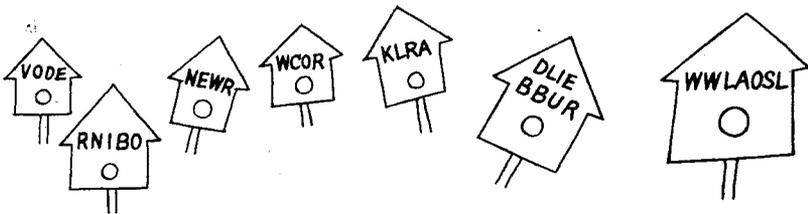
Second Week

1. Read and discuss the second story in English and Japanese. Have students repeat after you as you pronounce words and phrases. Discuss the underlying meaning using stimulating sentences such as:

1. What was the conflict in Janice's mind?
2. Why was it important for her to keep her promise to the children?

Divide class in several smaller groups and have students take turns either reading the whole story in turn or read a little in turn.

2. Bird Puzzle: On each bird house are the letters you need to spell the name of a bird. Rearrange the letters and spell the birds' names right.



3. Olympic Guide: (Pictures and maps will add interest)

The teacher can act as tourist and students one at a time could invite the tourist to come to a certain location or participate in a certain function. They may need a week in advance to prepare for this. For example: Invite them to walk through Hibiya Park. Tell of the fountain, the grass, flowers etc, that can be seen; the restful feeling that can be felt and anything else that would make the person want to visit. Explain the route to the park from various outlying locations or hotels. (The teacher may have to do one as an example.)

Third Week:

1. As this story is short if possible discuss a little more Grover Cleveland's background or discuss United States government or answer questions that the students may have about government affairs.
2. Try a spelling bee! Divide the class into two groups. Begin with simple words, gradually using more difficult words and words from the stories. When students are eliminated have them write the word they misspelled ten times and write a sentence using the word.
3. Olympic Guide:

frozen. He had remembered the first sale and had made it good. He had worried, however, because he could not remember to whom he had sold the second sack, and knew that he had probably been *unfair* with one of his customers.

Jeffrey had a return to make, too, Mrs. Jefferson explained; and then mother and son walked home together, each shasing a bit of *pride* in the other.

September — (Reading the whole outline for the month will greatly aid in your preparation.)

First Week

Each week a different story is to be studied. They are very brief so study both Japanese and English in order to transmit the meaning.

1. Read and discuss the first story in English and Japanese, calling attention to difficult words and phrases. Students should practice reading the story to each other so if called upon could read it correctly in front of the class. Ask questions about the meaning behind the story and ask students if they have instances in their own lives that illustrates honesty.
2. Birdhouse Criss-cross by Betty Barford



1. Large black bird.
2. Like string, but much heavier.
3. When something is not shut.
4. "I saw a circus in a tent, I had such fun the day I _____."
3. (Plan ahead each week for the week that follows on this section.)

Because the Olympics are coming to Japan next year the Japanese people are anxiously preparing. To help them be prepared when foreigners ask them for help in finding directions use time in English class as a practical workshop.

To demonstrate; 2 missionaries should participate, one as a lost tourist, the other as a Japanese person. The lost tourist asks questions in trying to reach a certain destination and the other person can tell him to ride the train, tell a cab driver etc. Then have a student come up to play the guide.

The next day Janice received a letter from a dear friend she had not seen for ten years. The friend wrote that she would be passing through town on her way to travel abroad, and she hoped to see Janice for a few hours. To her dismay, Janice realized that the appointed time for the meeting conflicted with the time of the circus performance.

Without thinking, Janice said to the children, "I'm sorry, but I can't take you to the circus after all. A friend of mine is going to be here just at that time."

It was then that she realized that she had set an example of the very thing she *abhorred* in the children. After much *deliberation*, she wrote to her friend and told her that a conflicting appointment would *prevent* their having time together, though it was something she wanted very much.

Honesty Is Shown in Little Things

Grover Cleveland was one of nine children who lived his life in *rural communities*. The Cleveland family lived on very *meager* means and moved frequently in an effort to obtain even a modest living.

On one occasion the Cleverlands had a neighbor whose chicken laid an egg in their yard every day. Grover was taught that the egg was rightfully the property of the neighbor, so he returned it faithfully each time.

Grover Cleveland served two terms as President of the United States: 1885-1889, 1893-1897. His election on both occasions resulted to a great extent from the fact that he had a *reputation* for *uncompromising* honesty.

Dollars and Sense

"We got even this time, Mom," Jeffrey called, as he entered the back door and placed a sack of groceries on the kitchen table. In a *flash of regret*, Blanche Jefferson, mother of five, recalled a remark she had made at the dinner table the night before. She had been angry at the market manager, Mr. Hoffman, because the apples she purchased to bake were *frostbitten* and the dessert was *spoiled*.

"What did you do, Jeffrey?" his mother inquired.

"Nothing," Jeff replied. "I didn't do anything. Mr. Hoffman just gave me a dollar extra in change. He made a mistake when he counted it out. It serves him right for those frozen apples."

"I think we had better go back together and settle our differences with Mr. Hoffman," the mother said. Then, after a brief review of the meaning of the *golden rule*, the two returned to the store.

Mrs. Jefferson explained about the apples, and learned that Mr. Hoffman had sold only two bags of apples before he discovered they were

English Plan for September

HERE IS HONESTY IN ACTION

by Janice J. and Arthur S. Anderson

It is not enough for a person to be honest himself. It is also his *responsibility* to teach honesty to others, giving *inspiring*, real-life examples of its *application*. Many persons—who say they tire of *abstract advice* on the *topic*—thrill when given true stories about honesty in action. Here are four true stories about honesty to *motivate* us all:

Spiritual Savings

The Heaneys were *saddened* when they received a telegram late in August saying Mrs. Heaney's father had passed away at the family home in New Jersey. The situation was complicated as well as sorrowful, since it was only a week from the beginning of school and the four Heaney children would also be expected to make the *journey* to New Jersey. It was *evident* that the *expense* of air travel would work a *hardship* on the family *finances*.

When Mr. Heaney went to the airline ticket office, he took his oldest son, Tom, who had just turned 12. "The three younger children can go half fare," the ticket agent said. "You said the oldest boy has just turned 12, so why don't you just say he is under 12? This will save you half of his fare, too," the clerk suggested.

Certainly Mr. Heaney could use the money. And after all, it was only a matter of a few days in age. The father turned to his son and saw Tom looking back at him *quizzically*. "What would be the real cost of saving the fare?" the father asked himself.

"He is an adult," Mr. Heaney said to the ticket agent. "He will pay adult fare."

Tom straightened and stood a little taller; so did his father.

Instead, She Kept a Promise

Janice Thompson agreed to stay with her nieces and nephews while their parents took a holiday. She soon discovered that the children, who ranged from 8 to 12 years, had very little *regard* for the promises they made.

One day the children saw an *advertisement* for a *circus* and asked Janice if she would take them to see it the following week. She agreed.

その時彼女は自分が子供たちの内にきらっていたところのものを自ら手本として示してしまったことを覚った。よく考えた後、彼女は友だちに、ほんとに逢いたいけれど、丁度その時間にぶかった約束があるので逢いて行くことが出来ないと書いた。

正直は小さなことに示される

グローヴァー、クリーヴランドは9人の子供の1人で田舎で生活した。家族は非常に貧しく普通の暮らしをする為にも屢々職を求めて動かねばならなかった。或時、クリーヴランドの隣人の鶏が毎日彼らの庭に卵を生んだ。グローヴァーは、その卵が正しく隣人の財産であると教えられたので、いつも忠実にそれを返した。

グローヴァー、クリーヴランドは、1885—1889、1893—1897の2期に亘ってアメリカの大統領を務めた。彼のこの当選、2回とも彼が妥協しない正直さの為評判であったことが大きく原因しているのであった。

お金と分別

“これでお母さん平等になったよ”

ジェフリーは裏口から入って台所のテーブルに食料品の製を置きながら呼びかけた。5人のお母さんのブランチ・ジェファソンは、その前夜、夕食の時、言ったことを思い出して瞬間残念な気持ちにかられた。彼女は焼く為を買ったリンゴが霜におかされていた為デザートがだいなしになったので市場のマネージャ、ホフマン氏に対して憤慨したのであった。

“ジェフレイお前どうしたの”彼の母はたづねた。

“何でもないよ”ジェフは答えた。“私は何もしなかった。ただホフマン氏がおつりに1弗、余分にくれたのだよ、彼は数える時に間違っただだよ。それは氷ったリンゴの為にちようどよくなるのだ”

“私は一緒に戻ってホフマン氏との仲違いを解決した方がよいと思います”お母さんは言った。そこで少し黄金律の意味を復習してから2人は店に戻った。

ジェファソン夫人はリンゴに就て説明した。そしてホフマン氏がそのリンゴが凍っていることに気がつく前に2袋だけ売ったことを知ったのである。彼は最初に売ったのは覚えていたので、それをよくんたのであった。けれども2番目の袋を誰に売ったかわからなかったので1人のお客さんに悪いことをしたのを知って心配していたところであった。

ジェフリーも、お返しせねばならないのだ。ジェファソン夫人は説明した。そしてお母さんと息子はお互に少しの自尊心を分ち合いながら共に家路についたのであった。

ここに正直な行いがある

人は自分自身が正直であると言うだけでは不十分である。正直な行いをした模範的な実例を与へ靈感して他人に正直を教えることも又彼の責任である。この主題に関する抽象的な注告にあきあきしていると云う多くの人たちにとって、正直な行為に就ての実際の話は、非常な興味をそそるものである。ここに私たちすべてを刺戟する正直に就ての四つのお話がある。

霊的な節約

八月の末にヘニー夫人のお父さんがニュージャージーの家で亡くなったと云う電報を受取った時、ヘニー家の人たちは悲しみにとざされた。学校が始まるまでに一週間しかないので、四人のヘニーの皆さんたちもニュージャージーに行かねばならないことは、その悲しみに加えて更に状態をこみ入ったものにした。航空路の旅費が家計を困難にすることは目に見えていた。

ヘニー氏は丁度 12 才になったばかりの長男トムを伴って航空券事務室に行った時、券周施人に言った「3 人の若い皆さんたちは半額で行けます。御長男は丁度 12 才になったばかりですか？ そんならまだ 12 才になっていないと言えよいでしよう。そうすれば彼の料金も半額節約出来るでしょう」書記は提案した。

確かにヘニー氏はお金を利用することが出来る。そして要するにそれは年になってほんの 2・3 日に過ぎなかったのだ。父は息子の方を向いたがトムがおどけた顔をして彼を見返しているのを見た。「旅費を節約して実際の価格はどうなるだろうか？」父は彼自身に問うた。

「彼は大人だ」ヘニー氏は券周施人に言った。

「彼は大人の料金を払うだろう。」

トムは真直ぐなって少し高く立った、お父さんも同じようにした。

代りに彼女は約束を守った

ジャニス・トムソンはその姪と甥たちの両親が休日外出する間彼らと共に家に留る約束をした。彼女はすぐ 8 才から 12 才迄位の子供はあまり約束を重んじないことを発見した。

或日子供たちはサーカスの広告を見てジャニスに次の週につれて行ってくれるように頼んだ。彼女は賛成した。

翌日ジャニスは 10 年も逢わない親友から、手紙を受取った。その友だちは外国への旅行の途中、この町を通過するであろうから、わずかな時間ジャニスに逢いたいと書いて来た。ジャニスは逢うべき約束の時間がサーカスの行われる時間と衝突しているのを感じて失望した。

考えもせずにジャニスは子供たちに言った。「すまないけれど結局私は貴方たちをサーカスにつれて行けない。丁度その時、私の友だちがここに来るのだ」

